JANUARY 29, 1921. NO. 7619

The Japanese American News

大正拾年壹月二十九日（土）第七千六百十九號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET,
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA.
PHONE PROSPECT 238
ENTERED AT S. F. POST OFFICE AS SECOND CLASS MATTER.
K. ABIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPIES..... 5 CENTS
BRANCHES
DENVER, FRESNO, LOS ANGELES, NEW YORK, OAKLAND, OGDEN, PORTLAND, SACRAMENTO, STOCKTON, SAN JOSE, SALT LAKE, SEATTLE, VACAVILLE, WATSONVILLE.

日米

平和促進
代表者會成績

在米日本人會聯絡日本人會の定期代表者會議、四日間の會議を重ね、諸種重要なる會議を了して來るべき一年の大方針を立て一般在住同胞に對する進歩と平和との爲めに盡すべき義務あり、之が實行を託する規定數の委員を選出し、吾人は各地方の代表者諸君が熱誠を以て此會議に臨まれたるに對し感謝の意を表す。更に吾人は此會議全體を通じて現はれたる調和的大精神に對し滿腔の敬意を表するものなり。今や在住同胞社會は平和と協力一致の新時代を生み出すべき希望を以て充滿し從來の行懸や黨派的感情を一掃し、全部握手して外部よりの排斥壓迫に堪へ、內部の統一と改善と、而して經濟的實力の充實との爲めに有らゆる努力を爲さんとしつゝある際なるを以て此一般的在留同胞の希望が代表者會によりて文字通り代表せられたるものに相違なきが、兎角諸類の議案審議に際しても又新參事員選定に際して、此精神は一貫して現はれ、連日の議場に躍如として現はれたり。一部の間には多少の波瀾を豫期せざる可からざる案を提出せんとせしたるものもありて、危機に瀕したる如き感ありたるも、夫れ等も總べて平和を第一とする調和的精神により、提出は見合はされ、既に提出されたるものは撤回せられて、總べて圓滿に落着し、新選參事員も多くは調和的乃至人物の權衡を保つに苦心して選定したる結果の如く感じられ、將來の平和の爲めに大に意を强うするに足る。米在日本人會の改造に就きては、勿論十分に行はれ難き點もあれども、素より急激に行ひ得べきに非ず、漸を以て進まざる可からざるのなれば、米國人の腦間を置くこと、相談役を置くこと、地方參事員を增して農業家を餘分に加へること其他にて一先づ滿足し、自餘は次の機會を待つことにするも惡しからず。同胞の經濟的發展を圖る爲めに金融上の調査研究を爲すの大方針を立てたるなども、經濟界の現狀に鑑み極めて適當なることなり。尙內外の教化啓發に關する機關事業として、引續き同胞の生活程度を向上せしめ、米化の努力をつゞけ、一般米人をして一層良く日本人を了解せしめて彼我の和親を進むる精神を明らかにしたるなども望ましきことなりしなり。此上は其實行を托せられたる新參事員諸士が、代表者會に現はれたる大精神と正文の議決とに則り、其負托する一般同胞の期待に背かざるやう、愼重の態度を以て幹部を組織し、一切の施設を爲さんことを望み且つ信じ行くものなり。斯くて吾人は在住表者諸君が熱誠を以て此會議に臨まれたるに對し感謝の意を表す。更に吾人は此會議全體を通じて現はれたる調和的大精神に對し滿腔の敬意を表するものなり。今や在住同胞社會は平和と協力一致の新時代を生み出すべき希望を以て充滿し從來の行懸や黨派的感情を一掃し、全部握手して外部よりの排斥壓迫に堪へ、內部の統一と改善と、而して經濟的實力の充實との爲めに有らゆる努力を爲さんとしつゝある際なるを以て此一般的在留同胞の希望が代表者會によりて文字通り代表せられたるものに相違なきが、兎角諸類の議案審議に際しても又新參事員選定に際して、此精神は一貫して現はれ、連日の議場に躍如として現はれたり。一部の間には多少の波瀾を豫期せざる可からざる案を提出せんとせしたるものもありて、危機に瀕したる如き感ありたるも、夫れ等も總べて平和を第一とする調和的精神により、提出は見合はされ、既に提出されたるものは撤回せられて、總べて圓滿に落着し、新選參事員も多くは調和的乃至人物の權衡を保つに苦心して選定したる結果の如く感じられ、將來の平和の爲めに大に意を强うするに足る。米在日本人會の改造に就きては、勿論十分に行はれ難き點もあれども、素より急激に行ひ得べきに非ず、漸を以て進まざる可からざるのなれば、米國人の腦間を置くこと、相談役を置くこと、地方參事員を增して農業家を餘分に加へること其他にて一先づ滿足し、自餘は次の機會を待つことにするも惡しからず。同胞の經濟的發展を圖る爲めに金融上の調査研究を爲すの大方針を立てたるなども、經濟界の現狀に鑑み極めて適當なることなり。尙內外の教化啓發に關する機關事業として、引續き同胞の生活程度を向上せしめ、米化の努力をつゞけ、一般米人をして一層良く日本人を了解せしめて彼我の和親を進むる精神を明らかにしたるなども望ましきことなりしなり。此上は其實行を托せられたる新參事員諸士が、代表者會に現はれたる大精神と正文の議決とに則り、其負托する一般同胞の期待に背かざるやう、愼重の態度を以て幹部を組織し、一切の施設を爲さんことを望み且つ信じ行くものなり。斯くて吾人は在住邦人の社會に新時代の開け行くを樂んで期待するものにて、若し何れかの一部に此大勢に逆行し、一般の希望に背くものなどあらば、一般同胞の利益の爲めに其反省を求め其態度の變更を望まざるを得ず。然かも是の如きは眞に杞憂にて、今日左樣のもの有るべき筈無く、假令に有るとするも遠からず翻然其非を悔いて大勢に順應するに至るべきを信じたんとす。顧れば此處一年有餘、內外共に多事多難なる際なるに際し、同胞間の平和は遙かに理想的なるに遠く、協力一致は少なからず缺け居りて、可なりの不便も亦不利をも忍び來りたるが、今日漸く面目一新し、協力一致の平和時代の之より開展することになり、新總領事の來任によりて機會熟し、代表者會議に出席中の英國首相ロイド・ヂョーヂ氏、佛國首相ブリアン氏と衝突せりロイド・ヂョーヂ氏は廿八日「若し佛國が償金に關する意見を廿九日迄に變更せざれば英國代表團は最高會議を脫出して歸國せん」と聲明し之をブリアン氏に通達せり（巴里）

▲英佛首相衝突して激論す

巴里の聯合最高會議は廿七日午後獨逸賠償問題を審議せり佛國側は獨逸の償金を五百億とし佛國其五割五分を受くと主張し英國側は償金高を獨逸が實際支拂ひ得べき程度に協定せんと提議せり英國首相は「佛國は餘りに頑迷なり佛國のみ異議を主張しつゝあるが故に會議進行せず吾人は之れ以上躊躇する能はず」と聲明せり

▲賠償特別委員會設けらる

最高會議は廿七日午後九時に至るも償金問題を決せず結局英佛伊白四强の代表者を以て特別委員會を組織するに決定せり右特別委員會の白耳義代表者ジアスバー氏（外相）は償金高を六十億馬克乃至卅億馬克とし支拂年額を後日協定すべの案を提出せり右委員會は廿八日午前二時間會合を催し本會議にジアスバー案を報告せり最高會議本會議は廿八日午後四時半に開かるゝ筈なりしが見合はされたり尙ほ伊太利と白耳義とは英國の主張に味方しつゝあり（巴里發）

●近東問題倫敦會議

土耳其政府は聯合最高會議主催の小亞細亞問題倫敦會議即ち二月二十一日よりの會議に出席する旨回答せり尙ほ土耳其は小亞細亞土耳其領に於て聯合列强に反抗しつゝある土耳其國民黨軍司令官ムタファ、ケメル將軍の會議列席許可を希望せり（君府）

●米國列強融通金請求延期

次の米國大統領ハーディング氏は駐米英國大使グゼス卿に歐洲聯合列國は戰時米國融通資金の償還を一九三六年より一九四七年迄に延期し得べしと非公式に告げたりとの風說行はる（巴里）

軍備關係電報（一月二十八日聯合通信）

●米陸軍豫算額削減

米國議會下院豫算特別委員會は次の大統領ハーディング氏が常備軍を必要とする爲め陸軍省豫算額六億九千二百萬弗を三億八千二百萬弗に削減して之を下院本會議に報告せり（華府發）

●米上院の海軍縮小案有望

日英米海軍縮小提議案の提出者なるボラー氏は米國艦艇の價値を調査するの決議案を提出し若し日英米三國の國民が縮小を主張せば縮小實現困難に非ずと語り多數の議員之に贊同す（華府）

●八氏大海軍設置必要力說

ハーディング氏は米國海軍兵の機關雜誌なる「我が海軍」に手紙を送り商權を擴張し國防を確實にする爲めに大海軍を必要とす今後戰亂は益々海戰に依つて勝敗決せらるゝ語れり（紐育發）

●北京米公使
▲大使館昇格失敗

米國議會下院は駐露米國大使派遣費案及び支那の米國公使館を「アイ」の訪問を終りて華府に歸り大使館に昇格すべき豫算案を否決せり（華府發）

●國務卿談話

ブラジル、アルゼンチン及ウルグアイの大統領は「我が海軍」に贈呈すべき軍艦を必要とする爲め大海軍を必要とす今後戰亂は益々海戰に依つて勝敗決せらるゝ語れり（紐育發）

●獨償金協定

巴里の聯合最高會議の獨逸償金特別委員會に於て英國と佛國との衝突緩和さるゝことなれり右委員の談に依れば妥協案廿八日夜成立せり故に英佛の大衝突は回避せられんと（巴里發）

●希臘前首相出馬

英國首相ロイド・ヂョーヂ氏より秘密懇談を希望されたる希臘前首相ヴェニゼロス氏は巴里に突然現はれロイド・ヂョーヂ氏と小亞細亞問題及び希臘のコンスタンチン王復位問題に就き懇談せり（同上）

●愛蘭市長の演說

先日米國に密入國して問題となりし二十七日突然行衛を晦せる愛蘭ヨーク市長オーカラガン氏は廿九日紐育の「愛蘭人の會合に現はれて演說する筈なりと（紐育發）

●希臘王室の慶事

希臘王子ヂョーヂと羅馬尼の王女エリサベットは來る二月十日より同十五日迄に結婚すべく二月下旬に羅馬尼王子カロルと希臘王女ヘレンとの結婚式行はれん（アゼンス發）

●露領獨立に反對

巴里の聯合最高會議が波爾的沿岸前露領レトヴィア及エツーニアの獨立を承認するに決定せりとの報知に就き米國國務省當局者は之れ露領の分割に反對しつゝある米國の對露方針に反するを以て米國の對露方針に反する故に大統領ウイルソン氏之れに反對せんと語れり（華府發）

●デ氏巴里行否定

愛蘭「共和國大統領」デヴァレア氏は秘密に巴里に赴き巴里に於ける愛蘭革命黨員と會合せりとの風說あるが愛蘭革命黨本部は之を否定したり（ダブリン發）

●華州排日條件苛酷

華盛頓州議會に排日土地法案提出せられたるは咋報の如くなるが右の案は「一歸化し得る外人は土地を所有し又は賃借し又は相續する能はず（二）現在土地を所有する歸化し得る外人が今後七ケ年以內に歸化せざれば其土地は州に沒收さる（三）現在土地を所有する歸化し得ざる外人は十ケ年以內に其土地を處分せざるべからず（四）現行通商條約に準據して歸化し得ざる外人の財產は保護せらるゝの四ケ條を其主要條項となす（華州オリンピア發）

●ニューメキシコ排日決議

ニューメキシコ州會上院はラインブルグ氏提出の「日本人個人又は會社の土地所有又は賃借を禁止するの州憲法修正決議案を滿場一致にて通過せり（サンタフエ發）

●テキサス排日土地案提出

廿八日テキサス州會に排日土地法案提出され委員附托となれり右は加州の排日土地法を殆んど同一にてエルパソの在鄉軍人團に依つて起草されたり（テキサス州オースチン發）

歐洲新情勢電報（十二月廿八日聯合通信）

●償金問題英佛衝突
△英首相最高會議の解散を豫告す

獨逸の戰亂損害賠償額及び手段に就き巴里の聯合五大强國最高會議に出席中の英國首相ロイド・ヂョーヂ氏と佛國首相ブリアン氏とは衝突せり

▲日本の不人氣は當然なり

藤村男は更に支那に於て排日氣分濃厚なるは日本が侵略主義を取れるに依ると云ひ間諜出兵は日本の支那主權尊重の宣言に一致せずと云ひ歐米人が日本を以て軍國主義國又は侵略主義國と誤解するは當然なりと論せり

▲內田外相對支政策を辯明

藤村男の非難演說に對して內田外相と田中陸相とは何れも水町事件の責任を回避せり內田外相は對支問題の面白からざる狀態は政府の政策に由來せずと說明せり

▲田中陸相外交干涉を否定

田中陸相は陸軍省は外人宣教師及び新聞通信員の日本間島出兵に關する誤解を一掃せんが爲めに間島に派遣されたるものなりと云ひ日本陸軍將校支那に駐在するは外務省の對支政策に干涉するとの非難を受けつゝあるが干涉說は畢竟無根なりと辯明せり（東京發）

●布哇日本人口增加

廿八日米國國勢調査局發表の報知に依れば昨年の布哇人口の總計は廿五萬五千九百十二名にて內譯は日本人は十萬九千二百七十四名なり日本人の人口は一九一〇年以來三割三分增加せり布哇に於て日本人よりも增加率多きは比律賓人のみなり比律賓人は一九一〇年に二千三百六十一名なりしが一九二〇年に二萬千卅一名に增加せり尙ほ布哇土人は最近十ケ年間に二萬六千四十一名より二萬三千七百廿三名に減少せり（華府發）

●日本露領撤兵躊躇の理由

田中陸相は議會に於て日本軍の露領占領に關して「日本はチェコスロヴァヌク軍撤退後直ちに西比利より撤兵する筈なりしが優勢なる過激派軍東進しチ軍の壓迫の目的を破壞し極東の平和を擾亂せんとせるを以て餘儀なく撤兵を躊躇せるものなり」と辯明せり（東京發）

▲賠償特別委員會設けらる

巴里の聯合最高會議は廿七日午後獨逸賠償問題を審議せり佛國側は獨逸の償金を五百億とし佛國其五割五分を受くと主張し英國側は償金高を獨逸が實際支拂ひ得べき程度に協定せんと提議せり英國首相は「佛國は餘りに頑迷なり佛國のみ異議を主張しつゝあるが故に會議進行せず吾人は之れ以上躊躇する能はず」と聲明せり

▲英佛首相衝突して激論す

巴里の聯合最高會議は廿七日午後獨逸賠償問題を審議せり佛國側は獨逸の償金を五百億とし佛國其五割五分を受くと主張し英國側は償金高を獨逸が實際支拂ひ得べき程度に協定せんと提議せり英國首相は「佛國は餘りに頑迷なり佛國のみ異議を主張しつゝあるが故に會議進行せず吾人は之れ以上躊躇する能はず」と聲明せり

●近東問題倫敦會議

土耳其政府は聯合最高會議主催の小亞細亞問題倫敦會議即ち二月二十一日よりの會議に出席する旨回答せり尙ほ土耳其は小亞細亞土耳其領に於て聯合列强に反抗しつゝある土耳其國民黨軍司令官ムタファ、ケメル將軍の會議列席許可を希望せり（君府）

●米國列強融通金請求延期

次の米國大統領ハーディング氏は駐米英國大使グゼス卿に歐洲聯合列國は戰時米國融通資金の償還を一九三六年より一九四七年迄に延期し得べしと非公式に告げたりとの風說行はる（巴里）

軍備關係電報（一月二十八日聯合通信）

●米陸軍豫算額削減

米國議會下院豫算特別委員會は次の大統領ハーディング氏が常備軍を必要とする爲め陸軍省豫算額六億九千二百萬弗を三億八千二百萬弗に削減して之を下院本會議に報告せり（華府發）

●米上院の海軍縮小案有望

日英米海軍縮小提議案の提出者なるボラー氏は米國艦艇の價値を調査するの決議案を提出し若し日英米三國の國民が縮小を主張せば縮小實現困難に非ずと語り多數の議員之に贊同す（華府）

●八氏大海軍設置必要力說

ハーディング氏は米國海軍兵の機關雜誌なる「我が海軍」に手紙を送り商權を擴張し國防を確實にする爲めに大海軍を必要とす今後戰亂は益々海戰に依つて勝敗決せらるゝ語れり（紐育發）

●國務卿談話

決せり（華府發）

ブラジル、アルゼンチン及ウルグアイの大統領「アイ」の訪問を終りて華府に歸り大使館に昇格すべき豫算案を否決せり（華府發）

●北京米公使
▲大使館昇格失敗

次の米國大統領ハーディング氏は米國海軍兵の機關雜誌なる「我が海軍」に手紙を送り商權を擴張し國防を確實にする爲めに大海軍を必要とす今後戰亂は益々海戰に依つて勝敗決せらるゝ語れり（紐育發）

●露領獨立に反對

巴里の聯合最高會議が波爾的沿岸前露領レトヴィア及エツーニアの獨立を承認するに決定せりとの報知に就き米國國務省當局者は之れ露領の分割に反對しつゝある米國の對露方針に反するを以て米國の對露方針に反する故に大統領ウイルソン氏之れに反對せんと語れり（華府發）

●希臘王室の慶事

希臘王子ヂョーヂと羅馬尼の王女エリサベットは來る二月十日より同十五日迄に結婚すべく二月下旬に羅馬尼王子カロルと希臘王女ヘレンとの結婚式行はれん（アゼンス發）

●希臘前首相出馬

英國首相ロイド・ヂョーヂ氏より秘密懇談を希望されたる希臘前首相ヴェニゼロス氏は巴里に突然現はれロイド・ヂョーヂ氏と小亞細亞問題及び希臘のコンスタンチン王復位問題に就き懇談せり（同上）

●獨償金協定

巴里の聯合最高會議の獨逸償金特別委員會に於て英國と佛國との衝突緩和さるゝことなれり右委員の談に依れば妥協案廿八日夜成立せり故に英佛の大衝突は回避せられんと（巴里發）

●希臘前首相出馬

英國首相ロイド・ヂョーヂ氏より秘密懇談を希望されたる希臘前首相ヴェニゼロス氏は巴里に突然現はれロイド・ヂョーヂ氏と小亞細亞問題及び希臘のコンスタンチン王復位問題に就き懇談せり（同上）

●愛蘭市長の演說

先日米國に密入國して問題となりし二十七日突然行衛を晦せる愛蘭ヨーク市長オーカラガン氏は廿九日紐育の「愛蘭人の會合に現はれて演說する筈なりと（紐育發）

●希臘王室の慶事

希臘王子ヂョーヂと羅馬尼の王女エリサベットは來る二月十日より同十五日迄に結婚すべく二月下旬に羅馬尼王子カロルと希臘王女ヘレンとの結婚式行はれん（アゼンス發）

●露領獨立に反對

巴里の聯合最高會議が波爾的沿岸前露領レトヴィア及エツーニアの獨立を承認するに決定せりとの報知に就き米國國務省當局者は之れ露領の分割に反對しつゝある米國の對露方針に反するを以て米國の對露方針に反する故に大統領ウイルソン氏之れに反對せんと語れり（華府發）

●デ氏巴里行否定

愛蘭「共和國大統領」デヴァレア氏は秘密に巴里に赴き巴里に於ける愛蘭革命黨員と會合せりとの風說あるが愛蘭革命黨本部は之を否定したり（ダブリン發）

●華州排日條件苛酷

華盛頓州議會に排日土地法案提出せられたるは咋報の如くなるが右の案は「一歸化し得る外人は土地を所有し又は賃借し又は相續する能はず（二）現在土地を所有する歸化し得る外人が今後七ケ年以內に歸化せざれば其土地は州に沒收さる（三）現在土地を所有する歸化し得ざる外人は十ケ年以內に其土地を處分せざるべからず（四）現行通商條約に準據して歸化し得ざる外人の財產は保護せらるゝの四ケ條を其主要條項となす（華州オリンピア發）

●ニューメキシコ排日決議

ニューメキシコ州會上院はラインブルグ氏提出の「日本人個人又は會社の土地所有又は賃借を禁止するの州憲法修正決議案を滿場一致にて通過せり（サンタフエ發）

●テキサス排日土地案提出

廿八日テキサス州會に排日土地法案提出され委員附托となれり右は加州の排日土地法を殆んど同一にてエルパソの在鄉軍人團に依つて起草されたり（テキサス州オースチン發）

歐洲新情勢電報（十二月廿八日聯合通信）

●償金問題英佛衝突
△英首相最高會議の解散を豫告す

獨逸の戰亂損害賠償額及び手段に就き巴里の聯合五大强國最高會議に出席中の英國首相ロイド・ヂョーヂ氏と佛國首相ブリアン氏とは衝突せり

▲日本の不人氣は當然なり

藤村男は更に支那に於て排日氣分濃厚なるは日本が侵略主義を取れるに依ると云ひ間諜出兵は日本の支那主權尊重の宣言に一致せずと云ひ歐米人が日本を以て軍國主義國又は侵略主義國と誤解するは當然なりと論せり

▲內田外相對支政策を辯明

藤村男の非難演說に對して內田外相と田中陸相とは何れも水町事件の責任を回避せり內田外相は對支問題の面白からざる狀態は政府の政策に由來せずと說明せり

▲田中陸相外交干涉を否定

田中陸相は陸軍省は外人宣教師及び新聞通信員の日本間島出兵に關する誤解を一掃せんが爲めに間島に派遣されたるものなりと云ひ日本陸軍將校支那に駐在するは外務省の對支政策に干涉するとの非難を受けつゝあるが干涉說は畢竟無根なりと辯明せり（東京發）

●布哇日本人口增加

廿八日米國國勢調査局發表の報知に依れば昨年の布哇人口の總計は廿五萬五千九百十二名にて內譯は日本人は十萬九千二百七十四名なり日本人の人口は一九一〇年以來三割三分增加せり布哇に於て日本人よりも增加率多きは比律賓人のみなり比律賓人は一九一〇年に二千三百六十一名なりしが一九二〇年に二萬千卅一名に增加せり尙ほ布哇土人は最近十ケ年間に二萬六千四十一名より二萬三千七百廿三名に減少せり（華府發）

●日本露領撤兵躊躇の理由

田中陸相は議會に於て日本軍の露領占領に關して「日本はチェコスロヴァヌク軍撤退後直ちに西比利より撤兵する筈なりしが優勢なる過激派軍東進しチ軍の壓迫の目的を破壞し極東の平和を擾亂せんとせるを以て餘儀なく撤兵を躊躇せるものなり」と辯明せり（東京發）

●華州排日條件苛酷

華盛頓州議會に排日土地法案提出せられたるは咋報の如くなるが右の案は「一歸化し得る外人は土地を所有し又は賃借し又は相續する能はず（二）現在土地を所有する歸化し得る外人が今後七ケ年以內に歸化せざれば其土地は州に沒收さる（三）現在土地を所有する歸化し得ざる外人は十ケ年以內に其土地を處分せざるべからず（四）現行通商條約に準據して歸化し得ざる外人の財產は保護せらるゝの四ケ條を其主要條項となす（華州オリンピア發）

●デ氏巴里行否定

愛蘭「共和國大統領」デヴァレア氏は秘密に巴里に赴き巴里に於ける愛蘭革命黨員と會合せりとの風說あるが愛蘭革命黨本部は之を否定したり（ダブリン發）

●希臘王室の慶事

希臘王子ヂョーヂと羅馬尼の王女エリサベットは來る二月十日より同十五日迄に結婚すべく二月下旬に羅馬尼王子カロルと希臘王女ヘレンとの結婚式行はれん（アゼンス發）

●露領獨立に反對

巴里の聯合最高會議が波爾的沿岸前露領レトヴィア及エツーニアの獨立を承認するに決定せりとの報知に就き米國國務省當局者は之れ露領の分割に反對しつゝある米國の對露方針に反するを以て米國の對露方針に反する故に大統領ウイルソン氏之れに反對せんと語れり（華府發）

●デ氏巴里行否定

愛蘭「共和國大統領」デヴァレア氏は秘密に巴里に赴き巴里に於ける愛蘭革命黨員と會合せりとの風說あるが愛蘭革命黨本部は之を否定したり（ダブリン發）

●華州排日條件苛酷

華盛頓州議會に排日土地法案提出せられたるは咋報の如くなるが右の案は「一歸化し得る外人は土地を所有し又は賃借し又は相續する能はず（二）現在土地を所有する歸化し得る外人が今後七ケ年以內に歸化せざれば其土地は州に沒收さる（三）現在土地を所有する歸化し得ざる外人は十ケ年以內に其土地を處分せざるべからず（四）現行通商條約に準據して歸化し得ざる外人の財產は保護せらるゝの四ケ條を其主要條項となす（華州オリンピア發）

●ニューメキシコ排日決議

ニューメキシコ州會上院はラインブルグ氏提出の「日本人個人又は會社の土地所有又は賃借を禁止するの州憲法修正決議案を滿場一致にて通過せり（サンタフエ發）

●テキサス排日土地案提出

廿八日テキサス州會に排日土地法案提出され委員附托となれり右は加州の排日土地法を殆んど同一にてエルパソの在鄉軍人團に依つて起草されたり（テキサス州オースチン發）

歐洲新情勢電報（十二月廿八日聯合通信）

●償金問題英佛衝突
△英首相最高會議の解散を豫告す

獨逸の戰亂損害賠償額及び手段に就き巴里の聯合五大强國最高會議に出席中の英國首相ロイド・ヂョーヂ氏と佛國首相ブリアン氏とは衝突せり

▲日本の不人氣は當然なり

藤村男は更に支那に於て排日氣分濃厚なるは日本が侵略主義を取れるに依ると云ひ間諜出兵は日本の支那主權尊重の宣言に一致せずと云ひ歐米人が日本を以て軍國主義國又は侵略主義國と誤解するは當然なりと論せり

▲內田外相對支政策を辯明

藤村男の非難演說に對して內田外相と田中陸相とは何れも水町事件の責任を回避せり內田外相は對支問題の面白からざる狀態は政府の政策に由來せずと說明せり

▲田中陸相外交干涉を否定

田中陸相は陸軍省は外人宣教師及び新聞通信員の日本間島出兵に關する誤解を一掃せんが爲めに間島に派遣されたるものなりと云ひ日本陸軍將校支那に駐在するは外務省の對支政策に干涉するとの非難を受けつゝあるが干涉說は畢竟無根なりと辯明せり（東京發）

●布哇日本人口增加

廿八日米國國勢調査局發表の報知に依れば昨年の布哇人口の總計は廿五萬五千九百十二名にて內譯は日本人は十萬九千二百七十四名なり日本人の人口は一九一〇年以來三割三分增加せり布哇に於て日本人よりも增加率多きは比律賓人のみなり比律賓人は一九一〇年に二千三百六十一名なりしが一九二〇年に二萬千卅一名に增加せり尙ほ布哇土人は最近十ケ年間に二萬六千四十一名より二萬三千七百廿三名に減少せり（華府發）

●日本露領撤兵躊躇の理由

田中陸相は議會に於て日本軍の露領占領に關して「日本はチェコスロヴァヌク軍撤退後直ちに西比利より撤兵する筈なりしが優勢なる過激派軍東進しチ軍の壓迫の目的を破壞し極東の平和を擾亂せんとせるを以て餘儀なく撤兵を躊躇せるものなり」と辯明せり（東京發）

●華州排日條件苛酷

華盛頓州議會に排日土地法案提出せられたるは咋報の如くなるが右の案は「一歸化し得る外人は土地を所有し又は賃借し又は相續する能はず（二）現在土地を所有する歸化し得る外人が今後七ケ年以內に歸化せざれば其土地は州に沒收さる（三）現在土地を所有する歸化し得ざる外人は十ケ年以內に其土地を處分せざるべからず（四）現行通商條約に準據して歸化し得ざる外人の財產は保護せらるゝの四ケ條を其主要條項となす（華州オリンピア發）

●デ氏巴里行否定

愛蘭「共和國大統領」デヴァレア氏は秘密に巴里に赴き巴里に於ける愛蘭革命黨員と會合せりとの風說あるが愛蘭革命黨本部は之を否定したり（ダブリン發）

●希臘王室の慶事

希臘王子ヂョーヂと羅馬尼の王女エリサベットは來る二月十日より同十五日迄に結婚すべく二月下旬に羅馬尼王子カロルと希臘王女ヘレンとの結婚式行はれん（アゼンス發）

●露領獨立に反對

巴里の聯合最高會議が波爾的沿岸前露領レトヴィア及エツーニアの獨立を承認するに決定せりとの報知に就き米國國務省當局者は之れ露領の分割に反對しつゝある米國の對露方針に反するを以て米國の對露方針に反する故に大統領ウイルソン氏之れに反對せんと語れり（華府發）

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.
415-429 Sansome St., San Francisco, Cal.
P. O. Box 3125 Tel. Kearny 1396

資本金一億圓 積立金五千萬圓
預金總額五億一千六百萬圓
外國爲替預金送金貸附割引等一般銀行業務一切
日本全國何レノ地ヘモ無手數料
最迅便ニテ送金
郷里送金
横濱正金銀行
桑港支店

THE SUMITOMO BANK, LTD.
(COMMERCIAL)
315-319 California St. San Francisco, Calif.
Tel. Sutter 763
一本國特別定期預金（利息日下年六分五厘）
從來大阪東京及び横濱の當行各店にて特別小口當座預金を御預り出來ぬ事となりまして預金せらるゝ方は大變御不便でありましたが、それで今回特別小口當座預金の名稱を特別定期預金と改め大正十年一月一日より當行何れの店にても御預り出來る事と致しましたから續々御預入れを御願申します
株式會社住友銀行
桑港支店 桑港カリホルニア街三一五—三一九

新刊書籍山の如く新著
明日の本欄を觀よ
一日讀書を怠れば
一日文明に遲る
小田運送店
ポスト街一七七六 電話フヰルモア四六一
朝日運送會社
桑港ブヰキナン街一六〇一 電話クエスト七一七
デユポント商會
桑港グリー街一五〇三 電話クエスト一八三六
日本行汽船切符御申込に應ず
日本御料理
桑港カリホルニア街六一二 電話カネー一八一六
桑港パイン街五五一 551 Pine St., S. F. Cal.
帝國ホテル
(電話) ガーフィルド二八一
日本行汽船切符販賣
羅府東第一街三三一半
みかどホテル
3314 E. First St., Los Angeles, Cal.
日本行汽船切符取扱(電話)二一七〇四
食料品雜貨
洗濯用品一切
北米の五車堂
Tel. West 5488 1698 Post St., S. F. Cal.
糸左近著 家庭醫學 定價三弗五十仙
下田歌子著 婦人禮法 定價二弗
同 婦人常識養成 定價二弗
澤田順次郎著 處女の心理及危機 定價一弗三十仙
鳩山春子著 我が子の教育 定價一弗五十仙
青木大成堂
1601 Geary St., Tel. West 5361 San Francisco, Cal.

CALIFORNIA STATE LIBRARY SACRAMENTO, CAL.

テ州排日の眞相 (三)

聲の如く大なるものに非ず 原因は不信用なる土地會社

下津卯一

其翌日、日曜日の事、二三同胞とテキサス州サンアントニオ市の旅館にて會談中同地レは岸氏のホテルに會談中同地レヂョンの舊司令官が突然來訪し岸氏が如何に決せんとするやを聽き度しと云へも、同人は此地に方排日涙の發頭人を自認し最も極端なる人物の如く傳へられ居るより其氣持ちにて應待せしに意外の人物なるを發見せり彼は大戰に出征して身に敵彈三個を受けたる壯者にして吾人に語りたる談話中『世人殊に日本人は一般市民と共にビショップを以て日本人嫌ひの者と思ひ込み居る如くなれど實は然らず、予は佛蘭線に出征中タンク係として勤めし其時予の傍に在り平戰時は機關砲を操縦し勇敢に米國の爲めに戰ひ居たる戰友は白人に非ず黒人に非ず實に諸君の同胞日本人なりき予は其戰友に對して誠兄弟以上の温情を有し隨つて日本人に對しては他の一般米人よりも諒解を有す』と云へり

然らば何故に排日を唱ひ居るや問へるに答へて彼は曰く『予は一般市民と共にビショップを以て何等根柢なき土地を賣付けられし一人なり而して予も亦米國第一主義者の一人にして他國政府の援助の下に此國内に大植民地の建設さるべしと信ぜしに外なら在今日迄日本人が此地に入り來りし方法にて單獨にて來る者に對し反法にて單獨にて來る者に對するの要何れにありや、大熊等は其方法を誤れる者にして實際同情に堪ねざるも驕ぎが斯く擴大し今は火元のハーリンゼンよりも寧ろ飛火のブラオンスビルの方が排日熱盛んとなれる次第にして何とも致し方なし、故に岸氏等にして希望せば物質上の損害を免れしむる爲め其土地の同情を表し與れたる人々の溫情を永久に繋ぎ且つ將來入り來らんとする同胞の上に好結果を來すべきなりとの意味なり(一月十九日記)

◆今の米國外交官は役立たず 國務卿は小使同然

超上院の外交委員會が必要だ

ヴアンダリツプ氏は主張す

紐育の日本協會々頭にして駐日大使に擬せられたるフランク・ヴアンダリツプ氏は曰く『從來國務卿の人選は可成り良くはあつたが時には全くメッセンヂャー・ボーイの樣に看做された事もあり而も甚だ信用のない使小僧の樣な者もある國務卿が全く無視されて吾人は國務省の能力に就て或抑制を與ふる必要を認める、此目的の爲めの予は超上院の外交委員会組織を提唱するのだが之は委員非名任期十年とし毎年退職して新人物を入れる事とし常に半數は華府に在り平戰時は外國に出て居る者とし常に在り平戰時は外國に出て居る者とし常に在り平戰時は外國に出て居る者とし常

桑港實業家連が……東洋觀光團を計畫

＝桑港商業會議所が主催で

▲船舶局の最新船一隻借受けて日本支那等九十七日間の旅行▲

▼日本滯在＝十日間横濱東京大阪等

桑港商業會議所では東洋漫遊旅行の計畫を立て三日下着々其準備中であると昨日同所が發表した、其計畫にして成功せば今までにない

▲大袈裟な東洋漫遊旅行であつて米國造船所で建造され充運力の迅い最新式の滚船を用ひ桑港の實業家及び其家族を以て一行を組織し來る八月頃桑港を出帆してホノル、經由日本に起き東洋諸國を巡歷する順序となるのである、之れが爲め特に商業會議所より合衆國船舶局に出願して貴船一隻を求めた處が既に同局より快諾の旨回答があつたと其計畫者である外國貿易委員會の委員長デー・マーシャル・デル氏は發表して居る此計畫に提供せらるべき滚船は船舶局の五百三十五タイプの新造船である更に華盛頓政府に出願して正式に許可の來る迄滚船に關する

▲諸事項は未發表とするとの事デル氏の發表した處に依ると東洋漫遊の全旅程は九十七日で あつて一人全部經費一千弗以下とし一日約十弗見當の割である と同氏の談に『米國人は外國貿易を大に見學する要がある商業會議所が主催して安心の下に外國を旅行させ

▲見學せしめたい希望である、使用船はローン・スターステートの姉妹船で米國造船界に於て未だ之れ以上の優良船を見ざるものである、最新式船で旅行用としては最も適當して居る、而して船客を二百廿五人も収容出來る大型船である、我が商業會議所が墨國觀光團を組織して

▲三週間旅行を了へて次週には成功して歸つて來る、之れも桑港の實業家は隣國を見學することに依つて得る處多いことと信じてゐる、今回計畫の東洋旅行計畫の内容は桑港を八月中に出帆してホノルに二日滯在の上日本に航し横濱に上陸して同地に五日間滯在し東京に出で附近の見物し奈良、京都等の日本舊都市を巡歷の上大阪、神戸に出で上神戸より出帆至十一日滯在の上神戸より出帆上海に航し同地に五日間滯在し北京其他の都市を訪ずれて更に上海から瓜哇に赴き一週間經過したる後、バタビヤ、ソラバヤ、新嘉坡、西貢、佛蘭領印度

▲支那沿岸に還へり廣東に一日、香港五日、マニラに一週間滯在の上歸航の途に就く豫定である

◆東宮殿下は二月廿四日

＝御座乘艦は香取＝

▲横濱御出發と決定

東宮殿下には愈々二月二十四日軍艦香取に御座乘供奉艦鹿嶋を隨へさせられ横濱を御解纜御愛英と決したり、奉送艦隊司令官は小栗海軍中將にて歸途は米國を御經由の由にて今回の御旅行豫定日數は八ケ月間なり

（本社史京特電昨夕七時半著）

●日本人の證人出づ

▲羅府デントン事件

＝鹿埃運搬の件＝

昨年七月、羅府の鑛山業デントンと云ふ富豪が突然行衛不明になり百方捜索せるに二週間後彼の絞殺屍體が自宅地下室のクローセット内に

▲鹿茸を被れる儘發見さ れ其後同家のハウス・キーパーたりしビート夫人といふが殺人嫌疑者として収監されるに至れるが吾人は當時詳報せる處なるが去る廿六日羅府上級裁判所にてビート夫人の裁判あり其際證人の一人として日本人早田なる園丁も出廷せる由にて最後にデントン氏と過ひたる日、米人園丁が鹿茸を

▲運搬に從事せるを見たるや否や、ビート夫人がデントン氏の歸宅期日に就いて如何なる通知をなせるや、早田がビート夫人より燒却を命ぜられたるポケット袋内のデントン氏遺品等に就いて種々の尋問を受けたるが早田の答辯は何れもビート夫人に不利なるものなりしと云ふ

●自働車上の酒類密釀所

＝一日に百五十ギヤロン＝

昨日ナンベーブロ附近の農園に於て自動車上に設備せる大規模なるウキスキー密釀所發見せられたり豫て怪しと目星を付け居たる禁酒厲行吏七名は

▼昨日突如同農園の厩を臨檢したるに果して設備完全なる密釀所にして一日百五十ギヤロンの釀造能力を有する自働車上の機械を備へ多量の原藏し有同所の所有主なる王府第五十五アベニュー二九八に

▼住むホーニング同農園就働のデビメなる男を逮捕し目下嚴重に取調中なりと

●商業會議所の定期總會

▲昨夜開催した

桑港日本人商業會議所第九回定期總會は既報の如く昨夜六時半より小川ホテルに於て開催されたるが出席者四十餘名、晩餐を共にしたる後、川島理事長開會の挨拶に次て矢田總領事の演說あり昨年度事務及び會計報告あり改正案、「般會員提出案、本年度豫算案」役員の選擧及び入り評議員、理事等選擧ありたるが

◆今朝須市精神病院に護送される同胞狂人

▲＝身許不明の持本吾七

＝郡病院から救濟院へと流し歩いて＝

◇昨日法廷より宣告を受く◇

昨日桑港市立救濟院から市の精神病者收容所に向けて一人の日本人精神病者が送られて來た、病院のレコードに依ると其の男の名は持本吾七（ベ）となつてゐる、昨日午後法廷で

▼裁判の結果其正の狂人と判明しスタクトン市の州立精神病院に入院の旨宣告を下され今朝同地に向け護送される筈だが吾七の過去に就いて調べて見ると元同人は第六街五四六の米人ホテルにジャニターとして働き病氣に罹つて昨年春頃郡立病院に收容され

▼治療を加へられた甲斐あつて身體も漸く恢復したが桑港には日本人間の知人とて誰一人もなく又病後の身の仕事も爲兼ねたので型の如く昨年の七月一日郡立病院から救濟院に移され療養中でありたが最近に至り精神に異常を來し時々亂暴を演ずる爲め

▼救濟院でも持て餘し精神病者收容所に送り、遂ひに裁判の結果以上の宣告を受けるに至つたとの事、昨日詳しい身許に就いて記者が收容所に質したる時にも同人は頗る狂躁の狀態にて在り所員が『たに前は郡立病院に收容されるに前に何處に住んでゐたか』と尋ねるや

▼非常に興奮した顏附で『桑港中で寢てゐたのだ』と許りで蹤う張る要領を得ず本籍地過去も一切不明に終つた、猶

◆桑日總會

既報桑港日本人街佛教會館に於て開催さる筈なるが幹部提出規約修正案及び會員提出議案等も有り長時間を要する見込に就き會員は定刻を遲れざる樣に參集されたし

◆桑日總會初參事員

當選新參事員十名如左、唯紙の報道は大滯榮三氏を脱するに付訂正

牛島謹爾　大澤榮三郎
同　塚本松之助
同　大橋邦三郎
同　矢幡富藏
同陽東　宮本鉉三郎
同須市　永井多五郎
沿岸方面　羅武三郎
同　米村尹周
中加方面　神川幸一
同　增澤善政
同中方面　前田寛夫郎
櫻府方面　沖田伊之吉
同　森本政吉
同　松本保吉

欠点者＝内藤榮之進、高田力、蔚青木道嗣、岸木甫、井上吉郎、畠山喜久松、坂本節吾、照井丙吉、佐藤力太郎、平野山

●丹原事件裁判

▲抵當物横領事件

▲昨日午後に開廷

昨日午後二時より桑港警察判事三十一日午後二時より合衆國地方裁判所に於て開廷の筈

●懸賞金增額

▲羅府美人誘拐事件

＝捜索方針一定＝

昨紙に所報せる羅漢團の爲めに山中に幽閉されつゝある羅府株式仲買商ウィザーレル氏夫人に就いては如何なる方法を以つて救助せんかとて羅府警察署探偵及び私立探偵所員數名は一昨日夜を徹して協議せる結果方針一定せるもの如く昨朝より愈々活動を開始せるが今明日中に關係者一二を捕縛し得る見込あり と云ふ、因みに懸賞金は三千弗に增額されたり

●大統領寫眞に不敬

▲農家立退きを迫らる

ローダイに於て百三十英町の果樹園を有し一万八千弗の新住宅を有するオミュル・ロッチンメル兄弟は大統領ウィルソン氏の寫眞を傷けたりとの理由を以て同地アメリカン・レヂョンは同兄弟に對し家財を賣拂ひ早々立退くべしとの命令を發した此行動は同地實業組合に於て先づ問題となりレヂョンの注意を喚起したるのであるがレヂョンは右兄弟は忠良なる米國市民に非ずとの決議を通過したと

●在日新參事員會

本年度の來會を歡迎すと

定期總會にて改選されたる在米日會新參事員會は最初の會合時日は未だ確定せざるも來月七日頃に開會すべく內定し居れり又に於て各高等學校新入學生の歡迎會を催し一般の來會を歡迎すと同參事員會に於て更に常議員其

●學生會新入生歡迎

桑港學生會にては廿九日午後八時同會內にて新入學生の歡迎會を催し一般の來會を歡迎すと

●日本訪問米人警戒し就き疑問

▲日本軍の警戒説否定

▲日本賠償應諾

◇日本對米賠償應諾

浦鹽銃殺事件日本回答の內容

事件の再發を防止せんと聲明

公明嚴重に調査中

十八日東京諸新聞の報道に依れば浦鹽銃殺事件米國抗議に對する回答に於て日本政府は（一）今回の事件起れるを遺憾とす（二）今後斯の如き事件再發せざるべき手段を講ぜん（三）事件の眞相を公明且つ嚴重に調査し（四）賠償すべき場合には充分に賠償せん（五）日本は今回の事件を日本軍の浦鹽駐屯問題とは無關係なりとせり

▲日本訪問米人警戒し就き疑問

「東京朝日新聞」は司法當局者は日本の陸相は浦鹽列國駐屯問題に關し日本の米國海軍ランドン大將銃殺事件米國抗議に對する回答に於て日本政府は日本の陸軍に浦鹽市街警戒を依頼せり故に日本軍の市街哨兵配置は不都合にあらずと聲明せり由なるが米國側事件の右の依頼に參加せることを證する文書見當らず萬一參加事實あるも數ケ月前の無政府狀態時代と今日と異なるを以て日本軍は右の依頼を理由として警戒を繼續するに及ばず（聯合通信東京電報）

●日本軍の警戒し就き疑問

國務省當局者の談に依れば日本の陸軍に浦鹽市街警戒を依頼せり故に日本軍の市街哨兵配置は不都合にあらずと聲明せり由なるが米國側事件の右の依頼に參加せること を證する文書見當らず萬一參加事實あるも數ケ月前の無政府狀態時代と今日と異なるを以て日本軍は右の依頼を理由として警戒を繼續するに及ばず（聯合通信東京電報）

●外國貿易大會

本年クラブランドで

昨年港港市に於て第七回外國貿易大會を開催し日本人側よりも代表者が出席して盛會なりしが本年は來る五月にオハイヨー州クラブランド市に開催することに決定されたるが本年の會議に於ては南米貿易が重西問題となるべしと數日前に桑港商業會議所が發表したり

●蒲原町貯蓄組合役員

在加州

靜岡縣蒲原町出身者間に於て貯蓄奬勵と共に金融機關たらしむ可く大正四年六月に組織され會員五十餘名を積立金二千百弗を有する蒲原町貯蓄奬勵會にては過日役員改選の結果左の諸氏當選せり

顧問山本瀧藏、組合長漆畑學次郎、副組合長佐野秋三、會計主任久保田作太郎、會計久保田義次郎、漆畑貫吉、會計監査山崎鶴造太郎、高柳造太郎

●基督教青年會

晚餐會既報桑港基督教青年會聯合の大晚餐會は一昨夜ゴールデンゲート街本部にて開催席上各支部主事の事業經過報告及び新施設に就いての希望演說あり餘興中には日本人部の柔道擊劍有りしが頗る好評を博せり

●かすみ會新年音樂會

かすみ會にては明三十日午後六時より ブキャナン街一七三一の會場に於て琴、三味線、尺八等の新年音樂演奏會を催す由にて同好者の來會を歡迎すと

●桑港學生歡迎

桑港學生會にては明三十日午後六時より二青木道嗣、五嶽原眞一、土井慶吉、六手島知健、七寺澤久吉、八太田七郎、九內藤榮之進、十小島榮一、十一玉村新之助、十二森田重雄、十三清由藏、十四副嶋八郎、十五川嶋耕作、十六酒井喜多市、十七井上源平、十八遠藤常次郎、十九財滿孫次郎、二十酒井喜多市、二十一堀莊次郎、二十二鈴木久吉、二十三高田雷之助、二十四谷常男、二十五森田重雄、二十六清由藏、二十七井上源平、二十八遠藤常次郎、二十九財滿孫次郎、三十酒井喜多市、三十一堀莊次郎、三十二鈴木久吉、三十三高田雷之助、三十四谷常男、三十五森田重雄、三十六清由藏、三十七井上源平、三十八遠藤常次郎、三十九財滿孫次郎、四十酒井喜多市、四十一堀莊次郎、四十二鈴木久吉、四十三高田雷之助、四十四谷常男、四十五森田重雄、四十六清由藏、四十七井上源平、四十八遠藤常次郎、四十九財滿孫次郎、五十酒井喜多市、五十一堀莊次郎、五十二鈴木久吉、五十三高田雷之助、五十四谷常男、五十五森田重雄、五十六清由藏、五十七井上源平、五十八遠藤常次郎、五十九財滿孫次郎、六十酒井喜多市、六十一堀莊次郎、六十二鈴木久吉、六十三高田雷之助、六十四谷常男、六十五森田重雄、六十六清由藏、六十七井上源平、六十八遠藤常次郎、六十九財滿孫次郎、七十酒井喜多市、七十一堀莊次郎、七十二鈴木久吉、七十三高田雷之助、七十四谷常男、七十五森田重雄、七十六清由藏、七十七井上源平、七十八遠藤常次郎、七十九財滿孫次郎、八十酒井喜多市、八十一堀莊次郎、八十二鈴木久吉、八十三高田雷之助、八十四谷常男、八十五森田重雄、八十六清由藏、八十七井上源平、八十八遠藤常次郎、八十九財滿孫次郎、九十酒井喜多市、九十一堀莊次郎、九十二鈴木久吉、九十三高田雷之助、九十四谷常男、九十五森田重雄、九十六清由藏、九十七井上源平、九十八遠藤常次郎、九十九財滿孫次郎、百酒井喜多市、百一堀莊次郎、百二鈴木久吉、百三高田雷之助、百四谷常男、百五森田重雄、百六清由藏、百七井上源平、百八遠藤常次郎、百九財滿孫次郎、二百酒井喜多市、二百一堀莊次郎、二百二鈴木久吉、二百三高田雷之助、二百四谷常男、二百五森田重雄、二百六清由藏、二百七井上源平、二百八遠藤常次郎、二百九財滿孫次郎、三百酒井喜多市、三百一堀莊次郎、三百二鈴木久吉、三百三高田雷之助、三百四谷常男、三百五森田重雄、三百六清由藏、三百七井上源平、三百八遠藤常次郎、三百九財滿孫次郎、四百酒井喜多市、四百一堀莊次郎、四百二鈴木久吉、四百三高田雷之助、四百四谷常男、四百五森田重雄、四百六清由藏、四百七井上源平、四百八遠藤常次郎、四百九財滿孫次郎、五百酒井喜多市、五百一堀莊次郎、五百二鈴木久吉、五百三高田雷之助、五百四谷常男、五百五森田重雄、五百六清由藏、五百七井上源平、五百八遠藤常次郎、五百九財滿孫次郎、六百酒井喜多市、六百一堀莊次郎、六百二鈴木久吉、六百三高田雷之助、六百四谷常男、六百五森田重雄、六百六清由藏、六百七井上源平、六百八遠藤常次郎、六百九財滿孫次郎、七百酒井喜多市、七百一堀莊次郎、七百二鈴木久吉、七百三高田雷之助、七百四谷常男、七百五森田重雄、七百六清由藏、七百七井上源平、七百八遠藤常次郎、七百九財滿孫次郎、八百酒井喜多市、八百一堀莊次郎、八百二鈴木久吉、八百三高田雷之助、八百四谷常男、八百五森田重雄、八百六清由藏、八百七井上源平、八百八遠藤常次郎、八百九財滿孫次郎、九百酒井喜多市、九百一堀莊次郎、九百二鈴木久吉、九百三高田雷之助、九百四谷常男、九百五森田重雄、九百六清由藏、九百七井上源平、九百八遠藤常次郎、九百九財滿孫次郎、千酒井喜多市、千一堀莊次郎、千二鈴木久吉、千三高田雷之助、千四谷常男、千五森田重雄、千六清由藏、千七井上源平、千八遠藤常次郎、千九財滿孫次郎、二千酒井喜多市、二千一堀莊次郎、二千二鈴木久吉、二千三高田雷之助、二千四谷常男、二千五森田重雄、二千六清由藏、二千七井上源平、二千八遠藤常次郎、二千九財滿孫次郎、三千酒井喜多市、三千一堀莊次郎、三千二鈴木久吉、三千三高田雷之助、三千四谷常男、三千五森田重雄、三千六清由藏、三千七井上源平、三千八遠藤常次郎、三千九財滿孫次郎、四千酒井喜多市、四千一堀莊次郎、四千二鈴木久吉、四千三高田雷之助、四千四谷常男、四千五森田重雄、四千六清由藏、四千七井上源平、四千八遠藤常次郎、四千九財滿孫次郎、五千酒井喜多市、五千一堀莊次郎、五千二鈴木久吉、五千三高田雷之助、五千四谷常男、五千五森田重雄、五千六清由藏、五千七井上源平、五千八遠藤常次郎、五千九財滿孫次郎、六千酒井喜多市、六千一堀莊次郎、六千二鈴木久吉、六千三高田雷之助、六千四谷常男、六千五森田重雄、六千六清由藏、六千七井上源平、六千八遠藤常次郎、六千九財滿孫次郎、七千酒井喜多市、七千一堀莊次郎、七千二鈴木久吉、七千三高田雷之助、七千四谷常男、七千五森田重雄、七千六清由藏、七千七井上源平、七千八遠藤常次郎、七千九財滿孫次郎、八千酒井喜多市、八千一堀莊次郎、八千二鈴木久吉、八千三高田雷之助、八千四谷常男、八千五森田重雄、八千六清由藏、八千七井上源平、八千八遠藤常次郎、八千九財滿孫次郎、九千酒井喜多市、九千一堀莊次郎、九千二鈴木久吉、九千三高田雷之助、九千四谷常男、九千五森田重雄、九千六清由藏、九千七井上源平、九千八遠藤常次郎、九千

女優の娘

五黄星作　〔二十六〕

幣村警察醫は神栗に更つて檢察官の前に立つた。

彼は此の樣な訊問には、職業柄手慣れたもので、實驚が終ると、直に其の知つて居る範圍に於て、淀みなく訊問に答へるのであつた。

『貴方は死ぬと直ぐ檢案しましたか』

『はい、』時間ばかりの後に、私の來る前に此邸の呼びつけの醫師が來て居りましたが、うは御喚問の必要が無からうと思ひます、何故と云ひますと、診斷は私と同樣でしたから』

『宜しい、では貴方の診斷の結果を聽きます、死人には別に宿病と云つたものが有つた樣に見うけませんでしたか』

『少々肺尖に故障があつたばかり、他には異常を認めませんでした』

『その肺尖の故障の爲め死んだのではないのですか』

『いやうれは死因となる樣な重患ではありません』

『額の傷は』

『倒れた時の負傷です』

『他に何か——心臟でも惡いといふ樣な……』

『其樣とは絶對にありません』

『すると食物——何かの中毒といつた樣な形跡もないのですか』

『昨夜以來、助手と一緒に、出來る限りの化學的分析を試みましたが、其樣な形跡は毛末もないんです』

『すると結局、死因は不可解といふことになりますが』

『然うです、全く此の死人の死因は不可解です』

『宜しい』

檢察官は更に由良子の名を呼んだ。滿場の視線は期せずして由良子の上に注がれた。由良子は慄へる手に手套を握りしめて檢察官の前に進んだ。

『貴女は、死人が貴女に對して戀を打あけたといふとが、勅使原の死人に對する、敵意を引起したとは思ひませんか』

『いゝえ』

『貴方は勅使原定夫を愛して居りますか』

『はい、而して許嫁の間柄です』

『それならば、何故勅使原は、夫を打消樣なとをいふのでせう』

『うれは或る感情問題から、彼は怒て居つしやるのです』

『貴女は死人が貴女を戀してゐるといふとを神栗に打明けて何うして許嫁の勅使原に打明げなかつたんです』

『勅使原と小來栖とは親友ですもの、私の爲めに二人の間に不和を起すのを望みませんでしたから……』

『小來栖の死んだのを普通の死樣だと思ひますか』

『いゝえ、確かに何者かの爲めに殺されたのだと——然し何者が小來栖を殺したかは、全く存じません』

『貴女は時々、故人と口論をしたと云ふ事ですが、何の爲に口論をしたのです』

『それは私が勅使原と約束したと云ふ事に就て、彼人が私を責めるからです』

『すると死人が貴女を戀したのは、貴女と勅使原と許嫁にならぬ前からですね』

私と由良子との許嫁が出來ぬ前から、小來栖が由良子を戀して居たとは全く初耳だ。して見れば彼は私の爲めには親友でなくつて敵でもあつたのだ。私はそれを知らぬ間に、其敵を無二の親友として待遇してゐたのだ。

『然うして貴女に結婚を申込んだのですね』

『はい』

『宜しい』と、檢察官は今度は檢審官に向つて、倘は此上訊問を繼續すべきや否やを質ねた。四名の陪審官は乃で別室に退いて、暫時合議して居た樣であつたが、纔て五分間ばかり後に、『其の必要なし』と云ふ決議を與へた。

斯くて當日の偶豫審は一先づ閉ぢられる事となつたが、其結果得たる所は、小來栖の死が普通の死でない、即ち他殺だと云ふ事と、其の殺害が如何なる方法に依つたか不明だと云ふ事との二點で、他の一切は依然疑問の儘殘留される事となつた。

◆子供の躾け方

東京高等師範學校教授　佐々木吉三郎氏談

世の中の多くの親の中には種々な流儀で子供の爲めと考へながら案外惡いことであつたと云ふ事に氣の付かないものが多い。今其中の四つ五つを擧げると

無暗に金を子供にやる親

金錢と云ふものは使ふべき時に使ふべきもの、ならざる時には一厘も使ふべきものではない、と云ふとが眞實である。五つ六つになる子供を連れて散歩に出ると、判るが、子供は町へ出ると鞠も欲しい、バナナも欲しい、追羽子も欲しいと云ふが是等を皆子供の云ふが儘に買つてやつても將來は恐るべきことになる

子供時代には多くの金錢の自由を與へない方が宜い、併し小學校の二年三年にもなると『アレは厭だ』うれよりか『斯うゝ云ふ物が欲しい』と云ふ樣になるから、そうしたなら其の時には用途を指定して金錢を與へるやうにするがよい

漸く子供の頭腦が發達して來て無駄な金錢を使はぬやうになつたら金錢の自由を十分與へる、近來自由教育といふことが盛に稱へられてゐるが、之れは西洋の受賣のやうなもので眞の理法を辨へぬ極端から極端に走るもので子供の將來を害ふ恐がある。次に暇が多くて金が澤山ある親達は動もすれば物を買つてやつて親を偉いとか有難いと思はせる間違つた考へを持つてゐる者がある『今日は欲しい物を何でも買つてやる』『好きな物を澤山御馳走する』など云つて金で親切を現はし愛を示さうとするやうな親が商人や其他金を相手に仕事をする人々に能くあるが最も大に慎むべきことである。之が爲に子供は要らぬものを買ひ、餘計な物を食ひ、精神上亦肉體上に有害な結果を得るだけで眞の幸福は少しも得られない。故に子供の將來の幸福を心から希ふならば、何處までも精神的に或化するとに努めなければならない

御祝儀
御佛事
御菓子
鑵入銘茶　各種
桑港ポスト街一六九九
電話ウエスト五三六六
松屋
御菓子司

入院隨意
産婦人科、外科、眼科
内科小兒科、皮梅科
耳鼻咽喉科
日本病院
ドクトル中村竹之助
ドクトル大橋善次郎
桑港パイン街一八一一
電話フイルモア二〇〇四

◎内科、外科
◎産科、婦人科
◎小兒科
其他一般注射治療
桑港ウエブスター街一五四八（ポスト街グリーンの間）
公認ドクトル藤森醫院
藤森直和
電話フヰルモア五六四

◎皮膚病專門男女症難全治保證
診信は總て日本文にて宜敷候
通察時間自午前十時至午後九時
醫學博士劉日初
桑港グラント街五〇二
Dr. LOU YIT-CHO

市俄古市唯一丁寧親切低廉
及川旅館
御一報次第御出迎申可く候
電話ドグラス五九五九
2951 Ellis Ave. Chicago, Ill.

桑港櫻府電氣鐵道
桑港埠頭キールートより櫻府行
櫻府より桑港行毎二時間發車す
San Francisco-Sacramento R. R
Key Route Ferry. Phone Sutter 2339

HOTEL FUJI
423 Maynard Ave.
Seattle Wash.
麥君御親族御朋輩御呼寄の際は前以て御通知被下へば上陸に關し必要なる事項早速御返事可申上候
シヤトル市メーナード街四二三
藤井旅館
煙草遊支館二棟タロヤ及キヤヤ旅館各二百室最新設

帝國病院
1629 Post St., S. F.
醫學博士渡邊恭禮
主任ドクトル伊津野房一郎
桑港ポスト街一六二九
電話ウエスト七二六二
入院隨意

加州齒科醫師會
桑港公認齒科醫師
桑港グリー街一五二六　井戸本保之助
桑港ポスト街一七七六　林德太郎
桑港ブキナン街一七三九　小川榮一
桑港ポスト街一五三〇　田中敏太郎
桑港ブキナン街一五六八　山本辰雄
桑港ポスト街一六四五　谷田部保
桑港サター街一八七七　藤田省三
桑港ポスト街一六四五　木暮篤太郎
桑港ポスト街一六六二　槍垣益一
齒より來る故障は體内諸疾病に直接原因となるはX光線應用に依り醫學社會の實證なり
公認大久保齒科醫院
午日午前九時より午後五時迄
400 Sutter St. Cor. Stockton
McLand Bldg. Room 304
Tel. Sutter 7455

ウエルドン自動消火器
各國專賣特許
之を備ふれば火事の恐れなし
東洋及米國一手販賣
三德商會
桑港ウエブスター街一五六二
電話ウエスト四二七一

懸値無
金剛石時計貴金屬
シグマンド寶石店
マーグ
FILLMORE AT POST.
ウエルドン
六
ソリクシラフ
六
賃金廉迅低
用應叮嚀御命

桑港ポスト街一六九九
電話ウエスト五三六六
御菓子司
御佛事
御祝儀

大阪藥店
公認調劑
郵送無料
●強壮ユーキリン　鈴木博士發見　神經衰弱、骨血、精力減退、産前産後等滋養補血の良藥　百錠入一瓶二弗九弗三組十二弗
●男女強精錠　精力を增進し神經機能を刺激す　百錠入一瓶五弗　三瓶分二弗
●有効通經丸　有効安全に通經と身體を健全にする月經藥　一劑五弗
●確實つわり錠　婦人悪阻時に苦しむツワリも本劑に依りて根治す　確實　三瓶分二弗
●宇津救命丸　一、〇〇　●亀田六神丸　五、〇〇　●大木五臓圓　一、〇〇
▲和洋貴藥化粧品文房具等一切取揃有之候
藥局　多年の經驗ある日白人藥劑師により適藥を低廉に提供す
桑港ポスト街一五九四　電話ウエスト三四七四
OSAKA DRUG CO. 1594 Post St., S. F. Calif.

藥局
公認調劑
日本ドラグストア
桑港ポスト街一六九〇電ウエスト一八六
NIPPON DRUG CO.
1690 Post St., San Francisco.
藥品目錄無代贈呈

高尾鶴松
電話カーネー二四七六

國逸病院囑託通譯
桑港スタクトン街七五八

小川藥舗
1708 Buchanan St., S. F. Cal.
●小川製劑婦人病藥　內用　百粒入　外用　四十個分　三弗　二弗
●肥る藥　一ヶ月分　二弗
オーオー強壯劑は血の少ない人、やせる人、氣力體力の衰へた人等に最もきめある良藥なり
●アフロヂヤク錠　百錠入五弗　二瓶八弗
此藥は何れも神經機能の衰弱を治し精力を增す强壯劑にて不姙症の婦人等に用ゐて効果多し
●オシメカバー　最上米國製　一弗
●最上湯たんぽ　保溫附　四弗
電話ウエスト九五七　藥劑師　小川龜重

ホテル・ニューヨーク
ロスアンゼルス市東第二街三〇五（電話一二八六七）
食堂、自動昇降機、スチーム、ヒーター等最新設備
Hotel New York 305 E. 2nd St., L. A.
館主岡崎敬之介

公認調劑
日本ドラグストア
桑港ポスト街一六九〇電ウエスト一八六
NIPPON DRUG CO.
1690 Post St., San Francisco.

桑港ブキャナン街一五五二
公認北河醫院
スタンフォード醫科大學出身
ドクトル・オブ・メヂシン
北河慶次郎
電話フヰルモア五二八八

公認林産院
桑港ポスト街一五二八
電話ウエスト五七六八
公認產婆林イエ

公認川口產院
姙產婦收容の設備完全
內務省免許、加州公認產婆
桑港ブキャナン街一七一四
四九四七
電話フヰルモア
川口藤子

公認產婆家木英子
姙產婦收容隨時往診
桑港ブッシュ街一九〇七
內務省免許
電話フヰルモア一九八六

公認產婆倉本ひな
桑港ブッシュ街一八〇八
電話フヰルモア一九〇四

公認眞鍋產院
眞鍋はつよ
桑港グリー街一四二八
電話ウエスト七四一八

公認產婆村山なみゑ
桑港ポスト街一六二四
電話フヰルモア一七六一
產院

日米住所錄
THE JAPANESE AMERICAN DIRECTORY
日米住所錄
日米住所錄第十七號發送濟
日米住所錄は舊臘より發送を開始致し漸く一月十九日を以て全部發送終了致候間此處數日間よは總て到着可致候よ付不着の方は直接本社へ御通知被下度候
日米住所錄は左記の方よ限り贈呈致候ものに有之候間其邊御了承被下度爲念申添候
半年以上の日米新聞購讀者にて昨年十二月迄の料金支拂濟の方及び新規申込の讀者にて六ヶ月以上料金拂込の方
加州外の讀者にて前記規定に相當する方は送料金二十五仙御送附次第一部限り無代價にて贈呈可仕候
一九二二年（第十七號）日米住所錄　定價　金二弗
桑港　日米新聞社
日米新聞購讀料
一ヶ月一弗
六ヶ月六弗
一ヶ年十二弗
但前金に限り六ヶ月五弗五十仙
一ヶ年十一弗に割引致候

初春の御仕度は
是非當店で
二十一年度の新柄澤山着荷いたしました
男女洋服卸小賣
雜貨輸出入
ふく組
本店　桑港ポスト街一八六三　電話ウエスト三四四
支店　同サウスパーク一四〇　同　サター三六一八
同　横濱市本町五丁目九〇番地

◈山羊のミルク

狹き地積空地利用飼養に宜し
山羊ミルク滋養牛乳に比敵す

▼農園食料自給一方便▲

山羊のミルクは中歐北歐諸國莫惡臭があるからとて飲用を好まぬ人もあるが多くは其惡臭が牡山羊がミルクゴートと共にある

▼飼養者の不注意から牝

を不潔に保つから來る、然し牛乳が牛乳臭さが如くゴートミルクは一種特有の香氣を保つ此香氣はなれると何とも思はぬ樣になる、山羊ミルクの用途は牛乳の如く其儘飲用とするのみならずチーズの製造原料ともなる山羊ミルクは歐洲諸國にては米國

▼常用と せられる此ミルクは消化が容易であるからとて病人小兒等の飲料として醫師が勸誘する、一期の乳汁分泌日數は少なくとも八ケ月時には一ケ年に達する事もある勿論餘り優等でない牝山羊になると五六ケ月にて分泌を終る事もあるが此稱を改良法としては純血種の種を入れて次代山羊の改良を計畫する以外

▼良法がない尙飼養法は乳汁分泌期中には特に注意して滋養にある飼料を選んで與ふる其期間を延長する効力がある搾乳時間は規則正しく行ひミルクを少しも乳房に殘さず完全に搾取る其外乳汁分泌を終つて後には少しく山羊に休養の機會を與ふる事にすれば乳汁分泌日數を延長するものと稱せられる

▼常用と せられる此ミルクは消化が容易であるからとて病人小兒等の飲料として醫師が勸誘する、一期の乳汁分泌日數は少なくとも八ケ月時には一ケ年に達する事もある勿論餘り優等でない牝山羊になると五六ケ月にて分泌を終る事もあるが此稱を改良法としては純血種の種を入れて次代山羊の改良を計畫する以外

▼盛大と なる原因であるから、山羊は其習性からして飼料の補給を人力にてやるとすれば磽确の地と雖も放牧地として何等の不便を認めない、反之山羊は低地の濕氣に過ぐる野原にては飼料腐敗の危險があるが乾燥せる氣候が自然に山羊飼養に適當してゐるのが此事業の他の地方に比し

▼成功の望みがある、加州内地平原の農園にてはアルフアルファーが乳牛に對すると同樣其飼養として適當であるアルフアルファーの栽培に不適當な地方ならば他の牧草即ちクロバー、ウイツチ、レーブ、ビース等を其代用とし得る、然し大多數の山羊飼養者は商賣にするのでなく自家用を目的とし數頭を飼ふから特に

▼飼料の耕作等をやらず道端の野原市街の空地等に自然に生長する雜草を利用して飼育する故に山羊は飼養者に注意かあれば殆んど荒廢地の雜草其他農園の敗物を利用して滋養に富むミルクを成産するから農園食料自給法としても山羊の飼養は注目するの價値がある飼料を要求する量とミルク

▼生産量とを比較考量して見ると山羊は非常に安價にミルクを製造する山羊のミルクは牛乳とその分析比較は左の如くである

	山羊乳	牛乳
脂肪	%三、八二	四、〇〇
固形物	一二、八二	一二、七〇〇
蛋白質	三、二〇〇	三、三〇〇
ケーシン	二、四〇〇	三、〇〇〇
灰	〇、五五〇	〇、七〇〇

以上に示すが如く

▼養分の點から見て兩者に大差がない、然し山羊ミルクの脂肪分は牛乳のうれよりは餘程細かい脂肪分子に依つて組織せられて居るから消化が容易であるそうだ山羊のミルクは一種の

▼山羊の數が多くバサデナ市などには山羊ミルクを牛乳の如く華客を定めて毎日配達する商賣人が居ると聞いた、南加に山羊が多く飼養せられるは或は墨國人の習俗が幾分影響して居る爲めも知れない、其他南加の乾燥せる氣候が自然に山羊飼養に適當してゐるのが此事業の他の地方に比し

▼盛大と なる原因であるから、山羊は其習性からして飼料の補給を人力にてやるとすれば磽确の地と雖も放牧地として何等の不便を認めない、反之山羊は低地の濕氣に過ぐる野原にては飼料腐敗の危險があるが乾燥せる氣候が自然に山羊飼養に適當してゐるのが此事業の他の地方に比し

▼成功の望みがある、加州内地平原の農園にてはアルフアルファーが乳牛に對すると同樣其飼養として適當であるアルフアルファーの栽培に不適當な地方ならば他の牧草即ちクロバー、ウイツチ、レーブ、ビース等を其代用とし得る、然し大多數の山羊飼養者は商賣にするのでなく自家用を目的とし數頭を飼ふから特に

▼飼料の耕作等をやらず道端の野原市街の空地等に自然に生長する雜草を利用して飼育する故に山羊は飼養者に注意かあれば殆んど荒廢地の雜草其他農園の敗物を利用して滋養に富むミルクを成産するから農園食料自給法としても山羊の飼養は注目するの價値がある飼料を要求する量とミルク

▼生産量とを比較考量して見ると山羊は非常に安價にミルクを製造する

ロスアンゼルス (廿七日)

羅府市援助で同胞社會事業

▲中加新聞社會に諮問 羅府市役所内の社會事業課委員コーイン氏は豫て日本人社會の社會事業に關係ある日白人數名に廿六日午前市役所に參集を乞ふ旨の案内狀を中央日本人會筆森書記長の許に送り來りたる由にて同日市役所に出頭せるに日本人側よりは筆森氏を始め川島、迎田、乾の諸氏米人側よりはブレスデール博士、ブレットン司祭、ストープ司祭の諸氏にしてコーイン氏は他に書記五名をも加へ社會事業に關し説明すべき事業に關する

サクラメント（廿五日）

過つて發砲　負傷絶命す

▲鴨獵に行かんとして

オルソン附近にて同胞の經營せるイーグル米作會社の雇傭人山口縣人チー森川藤太郎（四十四五）は元當市エム街邊にて水菓子店を營みしこともある人の由なるが去る廿七日の午後鴨獵に行かんと銃を擔ひたる際突然發砲して彈丸右肩に入り込み出血夥しき樣事に人々驚せ參じチーコの病院に送り治療を加へし甲斐もなく昨朝絶命したりとのこと過失發射の原因は銃丸裝塡の節引金を引締めるこを忘れ故なりと尚ほ同紙所報に流彈に左眼を射られホワイト病院入院中の村仙助氏は同眼失明するに至りたる由

●不村佛教會總會　當地佛教會に於ては去る廿日定期總會を開き三好理事長の事務報告谷川會計の會計報告其他重要議案の議決を終り役員選擧の結果左の諸氏當選せり

理事長　森瀧徳助、理事仁梁鶴市、谷常吉、三好盛太郎、谷原仁市、會計谷川玉藏、落合玉一、會計監査補木吉市、武田正登外常議員三十五名

●訃報　來る卅日（日曜）午後一時より櫻府及びペンリン各開教使を聘し例年の通り祖師報恩講を執行する筈なれば多數の來聽を希望する

●故伊藤善兵衛氏法要　北櫻府にて元農業を營みたる福島縣人伊藤善兵衛（四十二）は一昨年西國巡回に罹り歸國療養中なりしが舊臘十二月廿九日死亡せりとの訃報に接したる當市の親戚友人は一昨日當市佛教會にて追弔法要を營みたる由

●加留多會　昨二十七日の夜櫻府日本銀行の樓上にて有志十數名の加留多會催されたるが御馳走もあり盛會をりしと

●鑛國　當市旭眼科院三木雄造氏夫人は國許よりの急用にて來る二月十八日の天洋丸便にて一時歸國する豫定なりと

●寄附　フロリン美以教會に東野慶熊氏ミセスより出產祝金として五圓を東部氏より它界一週忘恩念として寄附

●岩國屋郵函廢止　當市第五街の岩國屋旅館にては今回郵函使用を廢止しアドレスの千四百二番の郵便番號のみ使用すと

オークランド

問題の女　行方を晦す（四）

懺悔錄の一節

▲悔と涙の日　女としてはいつも怖しい罪を犯しては悔まれる手術を受けてから井上糸子は東洋ホテルに歸つたが彼女はそこには賭博に身をもち崩した情夫石川政雄のふしだらな生活を見なければならなかつた、石川は文なしとなつて遂には女の指輪や眼鏡までも質入したのであつた、さうして女は朝から晩まで悔と共に現在の悲境を泣く目に逢つたのだ、が石川はホテルの主人から金を借りてローダイに一人で行つたのは十二月七日であつた、そして八日糸子宛に五十弗の電報爲替を送り九日には特別配達が糸子に届いた、女はそれから十四日まで二回石川に手紙を書いた、そして十四日に田舍から石川が怪我したからすぐ歸れと言ふ電話があつたが其時田村夫婦に歸らぬことを誓ひ更に委任狀を書いた

▲後見後任狀『私儀は今般貴殿に向つて萬事御一任申候如何なる事情出來候とも何らの苦情申立間敷爲後日依而如件』と言ふ一札であるが、それは女がどうしても石川が嫌やだと言ふのだで保護を賴んだのであるの、然るには女がそれまで石川へやつた手紙は『私をたゞしさを訴へ、田村夫婦はたゞ『輕蔑したとを申します』『我々は直ち送寫に致す』など言つたと言ふ新幹部組織に移りしが市內役員中より缺席して委を見せざる役員も數名あり容易に幹部成立の見込み立たざるの一大雜產に遭遇し昨二十五日午前五時後明方に產聲をあげたり役員左の如し

▲常置評議員　假茅野太郎、玉置誠一郎、福島信次、松田平穩、山口廣常村上ふ、どつちかと言へば田村夫婦に對して一種の恐怖を抱いた心もちを述べ『金を送つて下さつたら私は此處を逃げる』とまで書いた、だから石川の方も手紙を見れば可愛相だと考へ人を以つて糸子を引きとらさうとした併し田村は他人に女はさうさせぬを拘引せるが尚引續き嚴重なる調査を爲す由

●禁酒官大活動　合衆國禁酒官はセリフ・ライル氏の協力の下に昨夜突然市內の各所に酒類密賣者の大檢擧を開始し數人を拘引せるが尚引續き嚴重なる調査を爲す由

サンノゼ（廿日）

●排日舞踏會　加州排亞協會は東部に排日宣傳を爲す費用二十万弗の內二千弗を本部に割當てたる由にて當市兒孫會ゴールデン・ウエスト勞働同盟及び在郷軍人團の各代表者は昨夜協議の結果二月八日にムーム倶樂部にて大舞踏會を催し收益を以て之に充つることにせりと

●百年紀念傳道　美以教會にては百年紀念傳道の爲め平岩神學博士を巡廻教師として加州の各地に派遣し講演會を開催するとなり當市には來廿一日（月）午後二時より報恩講を修行內田監督及水谷開教使の說教ある由尚同日午後八時より再修行すと

●婆羅佛教會總會　明日午後七時より定期總會を開催今年度は新會堂購入に關する具體的報告を初めとして今後の發展策を講ずる由因みに同會は從來佛教青年會と稱し來りしも今後單に佛教會と稱すと

●寄附　次崎博有當門金五佛王府學園に大塚宮太郎金二十弗學園及佛教會に櫻原九一金五弗佛教會に各寄附

オグデン（廿六日）

●日會後半期總會　日本人會にては去る二十三日午後二時より當市佛教會々堂にして入會後滿一ヶ年間會費未納の者は除名することなれるが從來兩會長たりし黑田仁藏氏は昨年より腦病の爲め本年度役員の任務を辭任し左の新幹部成立せり

▲九州人會　會長星子寬次郎副會長本田政次、會計今松榮吉、幹事總山寬

▲熊本海外協會　會長星子寬次郎副會長本田政次、會計藤本繁雄、幹事荒木新次評議員補樂、星子、澤田、四島、井上、松本、宗正、田中

オクスナード（廿六日）

●熊本海外協會支部　オクスナード支部にては二十四日事務所に於て幹部會開催し貯蓄勞發行の件、評議員推薦の件、幹事推薦の件、第一役員會を二月六日事務所にて開催することを議したるが推薦評議員左の如し

中石武雄、櫻井金三郎、藤田長太郎、上三藏、芥川龍、竹松鶴次郎、見嶋憲平、工藤春吉、吉田喜太郎、佐藤卯作、田代勝太郎、岩本九万十、市下幸三郎、吉田初藏、後藤仙太郎

ワツソンビル（廿七日）

●革新運動　北加基督教會聯合の革新運動を沿岸地方に擧行すること本紙所報の如くなるが二十九日（土曜）は サンタクルーズ三十日（日）は華村にて講演者は樋井ッビングストン教會牧師外々の牧師語ラリナスの牧師ロートレー、ラリナスの日取りは本紙既報の通なり

●モントレー佛教會　卅日（日曜）午後七時より同會に於て新年集會を催し石黑開教使の法話並に今年度計畫につき協議すと

●幼稚園開園式　サリナスのオークグローブ苺園にては二十九日（土曜）午後一時より新設せられたる幼稚園の開園式を擧行すと答なりと

東京朝日新聞

東京朝日　取扱港　知新堂　大阪朝日

郵便國使用廢止廣告

郵函使用廢止尉後ハウス番號のみを使用可致御用向の方は左記宛郵便御提出順上候

櫻府第五街千四百二番　岩國屋旅館

一婦人の紹介

Mrs. D. T. Tryor, Franklin Ave., Otsego, O.. の來信には『九年前腎臟病にて困り諸藥を試みしも効なくフオレー！腎臟丸藥を服し効あり故に同藥を患者に紹介す』フオレー藥は脊痛筋痛リユマチスス及び勝胱症を治す（一の二）

種子物（今マクモノ）

ペッパー、トメート、ナス、レタス、ペッパー、スピニチ、大根、其他何でも有ます御遠方の方はチャツキにて御送金下さい

Kitazawa Bros　197 Jackson St., San Jose, Cal.　北澤商會

英貨公債

諸公債株式○貴　家屋九百弗、大工、工場五百弗、洋食店千七百弗、貸室十六室附千六百弗、野菜園

ヨーロッパサイド千二百弗

薪伐十名四、三〇仙　コード來五月まで婦人働なり　勞働　契約　大山桂庵　櫻府エル四二五メーン五四九〇

讓受廣告

今回浪花ホテル私儀櫻府エム街三〇八を讓受け候に就ては萬事に改良を加へて投宿者各位の御便宜を相計り可申候間何卒御引立の程偏に奉願上候

浪花ホテル　神田爲一　電話メイン三〇九四

貸地廣告

苺耕作希望者に空地四十英町程貸地したし農舍は各組により別途に添ふたるエルグローブ交通の便好く土地平坦肥沃灌漑の設備あり委細面談左記へ御照會被下度候

櫻府エム街三〇八　細川旅館

廣島縣人ハルヨ樣へ

ハルヨ樣御身が果して家出するまでの大事と思は私は思はなかつた私は其後御身の事が氣になつて一夜だつて安眠し得ないつて來て下さい何卒直ぐ歸つて來て下さい御身の要求に向つては及ばずながら最善を盡す事とします　櫻井

内務省免許　産婆　大塚産院

櫻府エム街三〇九　電話三二八八　川村旅館　川村伊太郎

公認　産婆　大塚産院

櫻府第四街一二七中　電話メーン一二二M　日本館

須市愛知縣人會

須市南センター街三〇七　電話三二六七　西村旅館

麹　味噌製造所

櫻府エム街二七　電話メーン三二三七　日本館

須市南センター街三〇一

電話メーン三二三M　日の本旅館

須市南センター街三〇一

電話メーン三二三　日の本旅館

櫻府日本町八

電話メーン五二四七J　廣島旅館

櫻府日本町行當上

電話メーン五一七〇J　住宅第四街一二〇四　松野醫院

櫻府第四街一二一六

電話三八四五R　大北館

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一一〇W　日本鳥屋

櫻府エム街三〇一番

電話メーン三九八　崎山商店

櫻府公認產院（いろは順）

和洋食料品　小食　谷本商店

櫻府第四街一二一六

電話メーン三五八五J　岩井きよ

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一二〇W　蟹江嶋子

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一二〇W　山浦なつ子

櫻府第四街一二一六

電話メーン四二八三　小林ひろ子

櫻府第四街一二一六中

電話メーン四二一五M　宮崎アイ

櫻府第四街千二百十番

電話メーン三九二一七　住宅三〇九四　高橋通辯事務所

櫻府第三街一二一九

電話メーン四九二一七　酒井藥店

櫻府第三街一二一九

電話メーン三七八六　みかど魚店

櫻府第三街一二一九

電話メーン三五七八一七　櫻面都魚店

櫻府第三街一二一〇

電話メーン三六四七　オーグル藥店

櫻府第三街一二一〇

電話三二〇二　肥後屋

櫻府第三街一二一〇

電話二八七三R　朝日時計店

櫻府第三街一二一〇

電話メーン三六六七　備州ホテル

櫻府第四街一二一八

電話メーン三六六七W　黑河寫眞館

櫻府第四街一二一八

電話三二〇七　日本寫眞館

櫻府第四街一二一八

電話三二〇七　吉田寫眞館

櫻府日本座向側

電話メーン二八五一W　降矢時計店

櫻府エム街四三一

電話メーン五〇三〇W　武田正夫

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　櫻府支社

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　竹本ドラグ

櫻府六街一二一六エルセエムの間

電話メーン三八六七W　大和家具商會

櫻府第四街千二百十五番

電話二六六七W　東西商會

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　岡山旅館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　日本寫眞館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　丸三商會

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　川村旅館

櫻府第四街一二一七中

電話メーン一二一二M　日本館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　西村旅館

櫻府エム街三〇九

電話三二〇三　日の本旅館

櫻府日本町八

電話メーン五二四七J　廣島旅館

櫻府日本町行當上

電話メーン五一七〇J　松野醫院

櫻府第四街一二一六

電話三八四五R　大北館

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一一〇W　日本鳥屋

櫻府エム街三〇九

電話メーン三九八　崎山商店

櫻府第四街一二一七

和洋食料品　小食　谷本商店

櫻府第四街一二一六

電話メーン三五八五J　岩井きよ

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一二〇W　蟹江嶋子

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一二〇W　山浦なつ子

櫻府第四街一二一六

電話メーン四二八三　小林ひろ子

櫻府第四街一二一六中

電話メーン四二一五M　宮崎アイ

櫻府第四街千二百十番

電話メーン三九二一七　住宅三〇九四　高橋通辯事務所

櫻府第三街一二一九

電話メーン四九二一七　酒井藥店

櫻府第三街一二一九

電話メーン三七八六　みかど魚店

櫻府第三街一二一九

電話メーン三五七八一七　櫻面都魚店

櫻府第三街一二一〇

電話メーン三六四七　オーグル藥店

櫻府第三街一二一〇

電話三二〇二　肥後屋

櫻府第三街一二一〇

電話二八七三R　朝日時計店

櫻府第三街一二一〇

電話メーン三六六七　備州ホテル

櫻府第四街一二一八

電話メーン三六六七W　黑河寫眞館

櫻府第四街一二一八

電話三二〇七　日本寫眞館

櫻府第四街一二一八

電話三二〇七　吉田寫眞館

櫻府日本座向側

電話メーン二八五一W　降矢時計店

櫻府エム街四三一

電話メーン五〇三〇W　武田正夫

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　櫻府支社

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　竹本ドラグ

櫻府六街一二一六エルセエムの間

電話メーン三八六七W　大和家具商會

櫻府第四街千二百十五番

電話二六六七W　東西商會

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　岡山旅館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　日本寫眞館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　丸三商會

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　川村旅館

櫻府第四街一二一七中

電話メーン一二一二M　日本館

櫻府エム街三〇九

電話メーン三〇六六　西村旅館

櫻府エム街三〇九

電話三二〇三　日の本旅館

櫻府日本町八

電話メーン五二四七J　廣島旅館

櫻府日本町行當上

電話メーン五一七〇J　松野醫院

櫻府第四街一二一六

電話三八四五R　大北館

櫻府第四街一二一六

電話メーン三一一〇W　日本鳥屋

櫻府エム街三〇九

電話メーン三九八　崎山商店

櫻府公認產院（いろは順）

和洋食料品　小食　谷本商店

櫻府第四街一二一七

電話メーン三五六二W　吉田齒科醫院

櫻府第四街千三百廿三番地

公認　宮崎醫院

アイオワ州立醫科大學出身　ドクトル・オブ・メディシン　宮崎秀太郎

電話メーン四二六九W

櫻府エム街三一九

電話醫院三九二〇W　住宅三九二〇W

公認　沖田醫院

ドクトル　沖田楠之進

出張所ウチナクローブ三日湯ヶ二階（日曜午後一時より六時迄）

櫻府第四街一二一八

ドクトル　柴太郎

電話メーン六四三

櫻府エム街三一〇

電話メーン三一二三七　吉村商店

櫻府エム街四〇一

和洋食料品　紀伊商店

和洋雜貨、金物類エム街三〇〇

電話メーン七七一

櫻府第四街千三百廿三番地

公認　宮崎醫院

アイオワ州立醫科大學出身　ドクトル・オブ・メディシン　宮崎秀太郎

電話メーン四二六九W

櫻府エム街三一〇備州館內

電話メーン五四六五W　岩本齒科醫院

櫻府第四街一四一四中

電話三〇九〇W　生命　片岡貫一

櫻府エム街六〇八、六街と七街の間（オールドバビロンの前）

春木醫院

ドクトル　春木柳平

メディシン　二四六六

櫻府第四街一三一

電話メーン八九七番

公認　名出病院

ドクトル　名出三郎

メディシン

內外科、小兒科、產婦人科

診察午前九時より午後八時迄

櫻府第四街一二一七

電話メーン三六一一　唐津病院

櫻府エム街二百二十八番

電話メーン二〇壹壹

唐津病院　病源研究所

櫻府第四街一二一〇玉

電話メーン二〇一〇W　廣島商店

櫻府第四街一二一〇八

和洋食料雜貨　電話三五〇六　隆辻便利社

櫻府第三街一二一七

電話三五六八一二二　佐藤齒科醫院

公認

齒科醫學士　佐藤廣吉

櫻府第三街一二一〇八

電話メーン三六六七　石井醫院

公認　石井銀佐

東京帝國大學醫學士

電話メーン三六六三

櫻府第三街一二一七

公認　村上醫院

▲內科▲外科▲內眼外科▲婦人科▲肛門科

元帝國大學病院在勤

ドクトル　村上利通

住宅第五街Q三のアレー五二二W

電話一九七二W

櫻府エム街三一四番

電話メーン三六〇五ガフリー

公認　加州　內田醫院

▲內科▲小兒科▲泌尿科▲外科▲肛門病科

醫學士　內田賢助

櫻府第三街一二一八

電話メーン三六一一　有明商會

櫻府エム街

末本

櫻府角屋

櫻府角屋

櫻府角屋

FOR AMITY BETWEEN
AMERICANS AND JAPANESE

The Japanese American News

ENGLISH EDITORIAL PAGE
SATURDAY, JANUARY 29, 1921 No. 7619

The New Consul General.

A new Japanese consul general took office in San Francisco this week. The Japanese American News welcomed him in the following editorial, in Japanese, last Sunday:

SHICHITARO YADA, RECENTLY APPOINTED consul general for Japan in this city, is expected to arrive this afternoon from London, his former post.

We Japanese on this coast welcome him to a man and we wish him every success in his new post.

California is the fountainhead of the anti-Japanese movement. During the past few years we have been bothered very much. The initiative land measure, voted by the people last November, has added to our discomfiture. It was this action that afforded opportunity for the diplomatic negotiations pending between the United States and Japan, in which an effort is being made to solve all the Japanese problems in this country.

All of the states contiguous to California—and others—are following the trail blazed by California. The various anti-Japanese movements are being welded into one great concerted action. Systematic efforts are being made to convert the disaffected Eastern states.

We cannot forsee the outcome of this movement. The Japanese are exerting every energy to retain the rights they have won in the past. We are endeavoring to better our spiritual and material status and at the same time our living conditions also, to the end that we may attain to American standards. We are striving to attain closer and more cordial relations, individually and in a business way, with Americans; to improve the general atmosphere in which we live.

We are in no extreme hurry. We do not expect to attain these things overnight. But with this general goal in our mindseye we are endeavoring to improve our destiny. All Japanese on this West Coast are as a man in this.

We hail the advent of the new consul general as the dawn of a new era for us. It is not pleasant to discuss what has gone before, but it is sufficient to say that a problem arose that was important to us here. We still are feeling some ill effects of that. Some of us have been oppressed beyond reason. Their peace of mind has been disturbed by the defense they are forced to make.

The cause of disturbance in the Japanese colony having been removed, the arrival of a new consul general assures us of happier conditions in the future. Mindful of this, it is with grateful hearts that we welcome the new official.

It goes without saying that the new will follow the course taken by the former consul general. To be faithful to his duty he will respect the connecting link between his predecessor and himself. But we hope he will profit by the folly of his predecessor.

Let us all, officials and others, stand together. We anticipate that the new consul general will be agreeable to this and will do all in his power to bring about such a result. For our part we will do all we can to help.

The Japanese in California have progressed materially and spiritually with rapid strides during the past five or ten years. The Japanophobes are not condemning us as inferiors. The reason they advance why we should be excluded is that we are getting ahead of them.

Spiritually, we always are striving to assimilate American ideas and current opinions. In that respect we have shown great progress. What we have attained, of course, is not sufficient, but we have shown faithfulness to our duties and responsibilities. At the same time we shall not submit to violation of our rights and interests. We will not submit to the oppressions of bygone days.

There is much in the Japanese saying, "Don't let the people know about anything political." We believe in free talk, in open minds. If anyone goes contrary to this progressive policy then a renewal of old troubles is to be feared.

At this time, in welcoming the new consul general, we sincerely hope that the thing we fear will never recur. Let us have peace among ourselves and let us make greater strides in progress and in Americanization.

Japanese American Problems.

The following is a free translation of an editorial in Japanese published in this newspaper January 22:

THE FORTY-FOURTH SESSION of the Japanese Diet has resumed its deliberations after the New Year holiday recess. During the session there will be many lively discussions of national and international problems. One important subject to be debated is the status of the American-Japanese diplomatic relations.

This subject has direct bearing upon our life in this country. It behooves us, therefore, to pay strict attention to the march of events in the Diet.

As everyone knows, the diplomatic relations of the two countries are becoming very complex. Especially are the Japanese in the United States in a delicate situation.

Among the subjects of paramount importance to be discussed in the Diet is the proposed disarmament of the two nations. According to reports from various sources, all the nations, since the close of the world war, have been in a mighty race for greater armament.

Ambassador Ishii, speaking before the League of Nations, declared that Japan cannot be expected to reduce her armament unless the United States takes the same step. About half the national budget of Japan is spent on unproductive armament. It leaves no opportunity for discussion, is of no use and brings every undesirable effect. If the same amount of money were expended in some productive undertaking the Japanese people would be happier. But as long as international relations continue as they now are and as long as all other nations maintain great armies and navies and stand ready at a moment's notice to use them—we live in an age of "armed peace"—no nation can afford to reduce her armament independently of the rest. Total disarmament would be out of the question.

When rival nations increase their armament others are forced to follow their lead. The result is the placing of greater tax burdens upon the people, but the nation must not be permitted to lag behind in the all-important matter of defense.

There is only one way to reduce armies and navies, and that is for all nations to act in unison. This has been an important topic of discussion in the councils of the League of Nations. Right now this is the chief topic in Congress. The great national legislature has passed a resolution to reduce the army of the United States. As for the navy, it is planned to have an understanding with Great Britain and Japan regarding reduction.

The Japanese people right now are staggering under heavy burdens on account of excessive armament. The Japanese people ought to respect the suggestions of Congress regarding disarmament. The Japanese Diet ought to vote unanimously to comply with the American suggestion. Some steps should be taken not only to reduce armament but also to formulate practical ways and means of accomplishing that result.

Many nations are denouncing the Japanese as extremely militaristic. Sometimes Japan is called a second Germany. There is a deep misunderstanding of the Japanese on the part of Americans on this subject. If Japan welcomes this suggestion—and lets the world know the suggestion is welcomed—then perhaps we may be able to dissolve this unfortunate understanding.

There is another matter likely to be discussed by the Diet—the question of the status of Japanese in the United States and their treatment by the American government. We realize that the Japanese government cannot make public what has thus far been accomplished in the informal negotiations which have been carried on, but the Japanese government should make its own attitude perfectly clear, as well as to the course it purposes to follow in its efforts to solve the problem.

We anticipate extended discussion of the Californian problem in the Diet, as well as a discussion of what other Western states are doing. Inasmuch as the opposition has not made a thorough survey or investigation of the subject in the United States, their arguments may perhaps be only of a theoretical and general nature.

There is no one in the Japanese Diet who can understand thoroughly the situation of the Japanese in the United States. We therefore cannot expect our wishes to be made known there.

Let us confine our argument to just one specific topic. That is, whatever they may change in the Japanese-American treaty, or whatever they do to what they call the Gentlemen's Agreement, do not deprive us of the right to marry.

There are perhaps 25,000 or 30,000 Japanese bachelors in the United States between the ages of 30 and 40 years. If these men are absolutely denied the right to go home to Japan, then return to this country with wives, then we would indeed be in the depths of despair.

CONVENTION OF THE JAPANESE ASSOCIATION OF AMERICA.

THE ANNUAL CONVENTION of the delegates from northern California to the Japanese Association of America was held this week from Monday to Thursday in the Sutter street branch of the Y. M. C. A. There were present forty delegates from twenty-nine Japanese associations.

Following the selection of a chairman and appointment of various committees in accordance with approved parliamentary practices, K. Kanzaki, secretary of the Japanese Association of America, reported on the accomplishments of the organization during the year passed. He said in part:

"When the congressional committee on immigration held its hearings on the Japanese question in San Francisco, twelve Japanese testified on behalf of their countrymen. Among all those who testified there were forty-six opposed to and forty-one in favor of the Japanese. Twelve maintained an attitude of neutrality.

"At first there was a general misunderstanding on the Japanese situation among the committee members. We believe, however, that we succeeded in bringing about an understanding before the committeemen returned to Washington.

"The pamphlets of this association had their effect in making our side of the problem clear to the American people."

On the second day of the convention Mr. Shichitaro Yada, the new Japanese consul general to San Francisco, spoke briefly, saying in part:

"I understand this meeting is representative of the members of the various Japanese associations which embrace the many thousands of Japanese resident in northern California. The destiny of the people you represent is trusted to your leadership. Therefore we appreciate your efforts and public spirit and wish you every success."

During the course of the business session a delegate from Oakland asked about existing relations between the Japanese consulate and the many Japanese associations. The Japanophobes have accused the Japanese associations of being the tool of the consulate, which is not the truth. Perhaps the delegate who raised the question was trying to clarify the mist surrounding the situation, rendering the object of the Japanese Association of America obscure to the American people; to draw a definite statement from the governing committee that the association usually assists the consulate in its investigations in connection with the issuance of certificates relative to business matters. This is the regular duty of the consulate, but it is too complicated and of too wide a scope to be executed easily and accurately, as Japanese subjects are widely scattered over California. However, to the great regret of some of the delegates the managing body evaded the direct question of the Oakland delegate.

On Wednesday a resolution to change the name of the association was introduced. It was argued that the words "Japanese Association" are misunderstood by some Americans, who infer that the Japanese Association of America is an organization for the dissemination of Japanese propaganda, instead of a simple, self-governing body of Japanese in this state who are cooperating in an effort to improve their general welfare. It was decided not to change the name of the organization. It was asserted that the name does not matter anyway, and it would be better to stick more closely to the business undertaken, rather than to deliberate on what the organization should be called.

Following this it was decided to elect ten or fifteen influential American citizens as an advisory board. The members of this board are to receive no compensation. This board of governors will give several banquets a year as a medium for receiving good advice from their American friends.

A legal bureau was created. This bureau will advise Japanese on complicated questions growing out of the new anti-Japanese land law.

Among other business transacted, it was determined to elect some influential Japanese, other than association officials, as members of the advisory board; to lend financial assistance to the Japanese Agricultural Association and the Japanese Salvation Army relief home, and to investigate the feasibility of creating a much needed financial system for the Japanese residents here.

Before adjournment a committee of fifteen was appointed to carry on the business of the central association. The personnel of the committee includes the most successful Japanese farmers, business and professional men in California.

The budget for the ensuing year totals $19,800. This will be expended for the salaries of the secretaries, office rental, suppression of the undesirable element and for miscellaneous purposes.

A TRIBUTE TO JAPAN.

(FROM THE SHANGHAI TIMES.)

IT IS, IN THESE DAYS, so seldom that the Japanese receive anything in the nature of a compliment or a tribute to their worth, that we have pleasure in caling particular attention to the kindly sentiments just expressed on behalf of the French people towards Japan and the Japanese.

The occasion of the felicitous observations was on the eve of the departure of Baron Matsui, ex-Ambassador of Japan, from Paris. On such valedictory occasions it is customary, of course, to "speed the parting the guest" with some felicitous remarks, but the sentiments uttered—even as indicated in the necessarily brief report so far received of them—are so obviously sincere that they are not for a moment to be classed in the same category with the customary parting speeches.

It takes a polite people to thoroughly understand and appreciate an equally polite people, and that is probably why the French and the Japanese have all along been such very good friends and why they continue to cherish the feelings of amity with which they regard each other. There is, however, something more substantial in the utterance that has just been made, in which, in the name of France, one of France's senators referred, in appropriately glowing terms, to Japan's faithfulness to the Allies and her scrupulous carrying out of all her engagements towards them."

JAPAN A WORTHY ALLY.

We are deeply gratified, we reiterate, to read of this tribute to Japan, for it is much too frequently glossed over or forgotten that as far as lay in her power Japan was in every respect a worthy ally, and, so far as the East was concerned, was a very pillar of strength to those Western nations fighting along with her in the cause of justice and freedom.

Though Japan's military skill was not called upon to any great extent, even at the capture of Tsingtau, Japan let it be clearly understood that it was ready to cross the seas should the need for her army arise. Her navy, which bears a worthy comparison with any navy in the world, was from the first day that she entered into cooperation with the Allies until the signing of the armistice ever assiduously working in the interests of the Allies and towards the destruction of the common enemy.

We have just to ponder for a moment on what might easily have happened here in the Far East had Japan elected, as she had been very strongly urged to do in several directions long before the war began, to form an alliance with Germany and, in consequence, had remained neutral or had been compelled by circumstances to side with the Germans. We here in the East would have been in a very different position had such been the case for we may depend upon it that the Allies could not have afforded to protect this part of the world.

But the Japanese, as we all know, had the good sense and the sound judgment to ally themselves long before the war with Great Britain and, shortly after the war started, unhesitatingly threw in their lot with the Allied nations ranged against Germany.

Japan's task, situated so far away from the actual scene of hostilities, was no light one, but, notwithstanding that, whatever she could do to further the interests of her Allies during the long period of the struggle she did so wholeheartedly, giving of her best, ungrudgingly and unhesitatingly.

For years her navy was practically the sole guardian of the Allies' interests in the Far East, and, also for years, splendid service was rendered by a large portion of Japan's fleet in the Mediterranean Sea. Japan proved a sound and reliable ally in every respect and is well worthy of any tribute that may be extended to her.

TREASON OF MITSUHIDE

FROM THE YEHON TAIKO-KI.

(Continued from last Saturday.)

THE OLD WOMAN OPENED her dim eyes. "Your tears are useless," she said feebly. "It was to be expected that such misfortune should befall a relative of Mitsuhide. Has he not murdered Lord Nobunaga, his master? By committing this treasonable crime he has compromised our house, up to this time free from infamy.

"He is an undutiful son. He is an unspeakable wretch. I cannot find words to express his wickedness. Wealth and station gained unrighteously are as floating clouds. He has the effrontery to boast of having slain his lord. He seems to forget that even though a man should become Emperor or Shogun by such means, he is worse than the most miserable beggar.

"If, on the other hand, a man has but a pittance to live upon, it is worth more than the income of a great *daimio* if he serves master and parents faithfully, and duly fulfills the duties of benevolence and justice, of loyalty and filial piety.

"Ah, Mitsuhide! Mitsuhide! The baseness of your heart has caused a world of misery. There are various weapons with which to kill a *samurai*, yet I am killed with a bamboo spear, generally used only for butchering wild boars. The punishment of heaven for having assassinated your lord is visited upon your mother!"

Seizing the end of the spear she thrust it deeper into her wound.

Misao, choked with tears, cried: "Oh, my husband, think of what you have done! Why did you not listen to me when I counseled against your evil plan? Had you done so, this misfortune would not have befallen us. I know it was an accident, but think of the horror of having killed your mother with your own hand! Before she dies, ask her forgiveness for your deed!"

MITSUHIDE JUSTIFIES ACTIONS.

"Away with you and your reproaches!" roared Mitsuhide. "Cease such nonsensical chatter. Have you forgotten how often that tyrant, Oda Nobunaga, insulted me? I was not under any great obligation to him. Despite my faithful remonstrances he destroyed Shinto and Buddhist temples. His evil deeds increased daily, so I took his life in accordance with my duty as a warrior and for the sake of the Empire. My deeds do but cover me with honor and glory.

"King Bu of China slew the tyrant Chu and in our own country Hojo Yoshitoki exiled an emperor. These great examples show it is the desire of all Japanese and Chinese heroes to relieve the people of their grievances by destroying their tyrants. Away with you women! What do you know about these deeds?"

Suddenly there arose the din of battle drums. All strained their eyes to see what was happening. Jujiro returned at this moment, and tottered up to the house. He was leaning on his sword, and blood gushed from his wounds.

"My parents!" he gasped. "Are you here?"

Misao and Hatsugiku were so choked with sorrow and dispair that they could scarcely speak. The girl ran up to him.

"Oh, my Jujiro!" she sobbed. "First grandmother, now you—both piteously wounded. Have courage, my husband!"

"Why so downhearted?" roared Mitsuhide. "What has happened?"

Pulling himself together with an effort, Jujiro gasped:

"Obeying your commands, I encamped on the seashore with my regiment of 3,000 horsemen.

All unsuspecting, the enemy rowed close to the shore. They landed on the beach for a march to the capital. Suddenly we fell upon them, and cut and hewed in all directions. Taken completely by surprise, the enemy broke and ran in confusion. We pursued, harrassing them.

"Suddenly behind us a loud voice was heard to cry: 'Hold! I am Kato Kiyomasa, retainer of Hashiba Hideyoshi. You, the son of the traitor Mitsuhide, and your followers shall now taste of the sharpness of my sword.'

"Raging with demoniacal fury, Kiyamasa hacked at us with his great sword. Encouraged by his example, his soldiers fell upon us with great vigor. Their attack was so powerful that in a few minutes my troops were killed to a man. In me behold the sole survivor of this battle, left to tell you the tale, my father."

CRUEL EVEN TO SON.

"What cowardice!" Mitsuhide cried, his hair bristling angrily. "What has become of Shioden?"

"Shioden's one concern was the destruction of Hideyoshi. He fought alone since yesterday morning; in the melee I missed him. I am not sure whether he is alive or dead. I was anxious about father's safety, and so I cut my way through the ranks of the enemy, and have come back here. It is dangerous to remain here longer. Don't lose a moment in hurrying back to our province, father!"

Jujiro, rapidly losing strength, thought only of Mitsuhide. His grandmother, overcome by this example of filial piety, burst into tears.

"Hear him, Misao," she said. "Jujiro is fatally wounded, yet he thinks only of his wicked father, my son. What a splendid boy he is! Mitsuhide, have you no feelings of pity or love for your own flesh and blood? Alas, my grandson is paying with his life for the loyalty he has shown to a vile traitor, instead of dying honorably in the cause of loyalty and justice. See what your wickedness has done! And what have I done to deserve such a fate.?"

The dying young warrior heard the voice of the old woman.

"Ah, grandmother!" he said faintly, "and are you dying, too? Is this our last farewell? I should like to see your face again before I die, but night has fallen about me—I cannot see. Farewell, father, mother, Hatsugiku!"

His hand held fast by the lovely girl, Jujiro breathed his last.

A MOTHER'S LAMENT.

His mother burst into tears. "It is the soldier's lot to die," she wailed, "but, oh! the pity of it. For eighteen years he has never known a moment of enjoyment. All his days have been passed in the din and noise of war. He has consecrated his life to the bow and arrow. This morning, when he was on the point of starting for the field of battle, he said, with a brave smile:

"'Mother, dearest, I expect to distinguish myself in my first battle today. I shall be praised for it by father and grandmother.' I can still see his bright smile. I shall never forget it."

Hatsugiku was sobbing broken-heartedly. "Is anybody in all the world more unhappy than I? Only this morning I was married to him—now we are parted forever! We have bidden each other a sad farewell, and have never placed our pillows side by side even once. What have I done that Heaven should punish me in this manner? I only wish that I could accompany my husband to the Meido. Oh, that I could die with him?"

(TO BE CONTINUED.)

WHEN THIS OLD WORLD WAS YOUNG.

(Continued from Last Saturday.)

THE DEATH-STONE stands on Nasu's moor
Through winter snows and summer heat;
The moss grows grey upon its sides,
But the foul demon haunts it yet.

Chill blows the blast; the owl's sad choir
Hoots hoarsely through the moaning pines;
Among the low chrysanthemums
The skulking fox, the jackal whines,
As o'er the moor the autumn light declines.

—B. H. Chamberlain, translation.

After a world of weary travel the Buddhist priest, Genno, arrived at the moor of Nasu and was about to settle himself for a rest in the shadow of a great stone, when a spirit appeared and said:

"Rest not under this stone! It is the Death-Stone. Men, birds and beasts have perished by touching it."

Genno's curiosity was aroused. He begged the spirit to tell him about the Death-Stone.

"Long ago there was a beautiful girl living at the Japanese court. So charming was she that men called her the Jewel Maiden. Her wisdom was a match for her beauty, for known to her was Buddhist lore and the Confucian classics, science and the poetry of China—

"'So sweetly decked by nature and by art
The monarch's self soon clasped her to his heart.'

THE MIKADO'S FEAST.

"One night the Mikado gave a great feast in the summer Palace. Assembled were the wit, the wisdom and the beauty of all the land. It was a brilliant gathering. While sweet music played and the guests ate and drank and made merry, darkness crept over the great apartment. Black clouds darted across the sky; not a star was to be seen.

"While guests sat rigid with fear a mysterious wind arose. Howling through the Summer Palace, it extinguished all the lanterns. There was complete darkness. Panic broke out. During the uproar some one cried out: 'A light! A light!'

"'And lo! from out the Jewel Maiden's frame
There's seen to dart a weirdly lustrous flame!
It grows, it spreads, it fills th' imperial halls;
The painted screens, the costly panell'd walls,
Erst the pale viewless damask of the night
Sparkling stands forth as in the moon's full light.'

"From that hour the Mikado grew ill. His condition became so grave that the court magician was sent for. He declared the Jewel Maiden was a harlot and a fiend,

"'Who, with insidious art,
The State to ravage, captivates thy heart!'

"The Mikado's heart was turned against the Jewel Maiden by the words of the magician. The Mikado spurned her, whereupon she resumed her original shape, that of a fox, and ran away to this very stone on Nasu moor."

The priest looked critically at the spirit. "Who are you?" he asked.

"I," answered the spirit, "am the demon that once dwelt in the breast of the Jewel Maiden. Now I must inhabit the Death-stone forever and a day."

Genno was horrified by this frank confession. He remembered his duty as a priest, however, and said: "Though you have sunk low in wickedness you shall rise to virtue again. Take this priest's robe and begging bowl, and reveal to me your fox form."

The wicked spirit cried pitifully:

"In the garish light of day
I hide myself away,
Like pale Asama's fires;
With the night I'll come again,
Confess my guilt with pain
And new-born pure desires."

Having spoken these words the spirit vanished.

GENNO PRAYS CONSTANTLY.

Genno did not relinquish his good intentions. Morning, noon and night he prayed for the salvation of this erring soul. In order that she might attain Nirvana he offered flowers, burned incense and recited the sacred Scriptures in front of the stone.

"Spirit of the Death-Stone," said Genne when he had performed these rites, "what was it in a former world that caused thee to assume in this world a shape so foul?"

Suddenly the Death-Stone opened and again the spirit appeared, crying:

"In stones there are spirits,
In the waters is a voice heard;
The winds sweep across the firmament!"

A lurid glare shone about Genno. In the shining light stood a fox, which turned suddenly into a beautiful maiden.

"I am she who first, in Ind, was the demon to whom Prince Hazoku paid homage. . . . In Great Cathay I took the form of Hoji, consort of the Emperor Iuwao, and at the Court of the Rising Sun I became the Flawless Jewel Maiden, concubine of the Emperor Toba."

In the form of the Jewel Maiden, the spirit confessed to Genno, she had plotted to bring destruction to the imperial line.

"Already I was making my plans, already I was gloating over the thought of the Mikado's death. Had it not been for the power of the Court Magician I should have succeeded in my scheme. As I have told you, I was driven from court. Pursued by dogs, wounded by arrows, I finally sank exhausted into the Death-Stone. From time to time I haunted the moor. Now the Lord Buddha has had compassion upon me, and he has sent his priest to point out the way of true religion and to bring peace."

Chamberlain thus ends the story:

"'I swear, O man of God! I swear,' she cries,
'To thee whose blessing wafts me to the skies,
I swear a solemn oath, that shall endure
Firm as the Death-Stone standing on the moor,
That from this hour I'm virtue's child alone!'
Thus spake the ghoul, and vanished 'neath the Stone."

(TO BE CONTINUED.)

Not possession but use is the only riches.

* * *

No rule without an exception.

By SOSEKI NATSUME.

(Translated by a Japanese Schoolboy.)

"ARE THE STUDYING of anything else maybe that easily understood?" remark Mrs. Nosey.

"Oh, ah, yerss, to be sure, he once wrote essay 'The Stabilities of Acorn, or Revolution of Celestial Bodies,' lisps beauteous masters.

"But, but, but," says Mrs. Nosie, "can such instrument as acorns be subject of studies by uniwersity?"

Gleat fiend hereby chaffed at lady unostentatiously.

"Why, I mysellufs onlie a novise on skientific subjects but I drars an inferrunce that it's worth while to study, maybe, because Mr. Cold Moons study it."

By this she appear to become conwinced the discussion of studies is entirely out of or beyond the range of her field and hence she steared away the topics of conwersation to elsewher.

"It's the diffrunt from what we've been discussing, but, somehow, I heard tell the misfortune Mr. Cold of Moon encountered this last New Year day and fractured two fronts teeth while eating shiitake mushlooms. Ain't that fact?"

"It are, and to that vacant lot caused by absence of tooths kuga rice cake adhered to."

Great friend knew that kind of a subjex was his speciality and became giddy goof.

"Such ineligance he musta been! Why din't he use tooth pickax?"

"I shall remind him next when I see at him," threaten beneficent master chuckly.

"Judgeing by easy damages to teeth on his mere biting of shiitake mushlooms, seems by me, the qualities of his teeths were somewhat of the inferior. What? What?"

"Seems by me, all right, it can't be said as it's good—how about that, Meitei?"

"It ain't no good, but it's somewhat charming or attractive. It are pecurior he ain't fixed damage as yet. It's special attraxion for kuya-rice cake."

HERE'S A HOW-DEE-DO.

"What are his leason for not fixing lost teeth, ain't he got the money enough to subsidize it or are it because of his exsentricity?"

"However, I don't believe he are got intentions to stay minus fore teeths forever. Don't you worry yourself away."

The great friend were getting back his temper at this time. But Mrs. Nosey transferred subject again.

"If you happen to have exemplar of his chirography here would you be pleased to let me sclutinize it?"

The batty master went in at his study and came out with forty or maybe thirty post cards.

"Oh, ah, you know, I don't need to look by all of them, just a few, if it's all the same by you," respond Mrs. Nosie.

"Let me glance at 'em," spreak gleat fiend, "so's I can select fine specimens for you."

He picked out card. "This here are extleamly interesting, I suspect."

"My, my," say Mrs. Nosey, "if he don't dlaw pictures, too, ain't he so clever, please let me observe."

When she observed it she cly: "How hollid! It's picture of the badger. What's his big idear in picking out or serecting such common or lowly animal as badger to draw—but ain't it strange it looks like badger?".

Then she admired it bit.

Read la inscription," commend busy master smilingly. Mrs. Nosey seem to read it aloud as ignolant servants read newspapers.

"'On last New Year's eve the badgers of the Mountains had a party and dansantsed. They sung:

"Come! It's New Year's eve.
Miyamafumi is not coming.
A-rook-chook-chooky."

"What's this, tell me. Ain't he fooling peoples?"

Mrs. Nosey somehow or other seemed to show attitrudes of unsatisfaction.

Gleat Fliend picked out once again and showing said: "How do you like this hear pictures of a sylph?"

AN ANGEL IN FURS.

It rewealed to be that of one of angel garbed in feathery robes and she are playing musical instlument.

"It seems by me her nose are weeny teeny bits too smallish."

"Why, it are just grand like nose. Read the word rather than taking the notice of nasal."

It say:

"There were once on a time a astronymer. One night, as it were a custom by him, he ascended to high towers and have been obswerbing the stars in the heaven jealously. Lo and behold! There was appeared one bootiful sylphs; played music so sweet as never could be heard in whole world. Atronymers compretely forgotten cold of nights and devourishly listened at music. The corpse of astronymer covered with white flost found next a. m. That old liar tole me stoly be tlue."

"What are this? Such nonsinse! Can he call hisself marster of sciences and do it go? He ought to read a litelaly magazine, I should suggest."

Mr. Cold Moon appear as he receive blunt of werbal bombardment or barrage. Gleat fiend enjoyed situwations excrutiatingly and showed third cards. This time it were likeness of boat that sail and just like others there are some careless like inscliptions on or upon it:

"The little gurl as staid last nite
Unfolded she has got no parents.
The plover of ballen stland
She cried tears on hearing.
This weepy song of plovers
As she awoken in early evening.
Her papa, mamma were sailers
And lurked at bottom of waves."

"Oh!" cry Mrs. Nosey, "ain't that just too grand?" she extirpate. That are really sumfin fine! After all this time he ain't such bone head and I seemed to thought."

"So," say beeming masters, "you think perhaps maybe he are got some sence?"

A TEST OF SONGS.

"Yes, this here songs could be played on samysem."

"Then it's real stuff if it would play with Samson. How is this one?"

Great friend he hand out other wans.

"I are seen enough already," screach Mrs. Nosey. "Never mind with other, thanks you. I'm conwinced that he ain't so much what we call a banking or clumsy man."

She understand Cold Moon now appallently. Perhaps Mrs. Nose was through with her quistions on poor Cold Moons already by this time so said:

"I beg you gents will excluse me. Please do not mention to Cold Moon San that I were at here."

Thus she make an exceedingly selfish news. Judgeing from her attitrudes, she are got intentions of digging out every little thing but wisn nothing to be told at Cold Moons about matter.

"Well?" they says mild mannered.

"We shall leimburse you for troubles in near distant futures," ejucurate Mrs. Nosey elaborately, and away she has went.

MORE BY SATTIDAY NEXT.